

はじめに

太田南地区の風土や文化を歴史の観点から調査・研究する太田郷土史誌研究会が2014年5月に発足して6年目になります。

これまでの5年間、主に太田南地区に残された史跡や貴重な資料を収集・研究し、パンフレット等にまとめ、地区の皆様にお知らせしてまいりました。

特に、2015年度は、高松市の「ゆめづくり事業」に参画し、それまでの蓄積をリーフレット・資料集などにまとめるとともに、太田南コミュニティセンターに総合案内板を、各史跡に現地説明板を設置し、地区住民の方に太田南地区の風土や文化を広く知っていただくツールを整備しました。(2019年度に総合案内板、現地説明板を再点検しました。)

2019年度は、引き続き史跡や貴重な資料の収集・研究を行うと共に、2019年度から開始した「出水(ですい)」に関する講演会や現地調査結果を『出水ガイドブック(初版)』として取り纏めました。また、地元廣田八幡神社の祭礼についての調査も行いました。

また、2017年度から編集を開始しました『太田南の昔ばなし』の第三集を2019年8月に発行することが出来ました。楽しい昔ばなしを提供いただきました藤村雅範様、また素敵な挿絵を描いていただきました宮脇麻有美様ありがとうございました。

2019年度は12人のメンバーで、月1回のミーティングをはじめ太田南コミュニティセンターとの共同企画など、出来る範囲で少しずつ活動してまいりました。この活動が、地域の皆様に少しでもお役に立てれば幸いに思っております。

なお、当研究会は、2018年度より太田南地区コミュニティ協議会の登録団体になりました。これにより、円滑な活動が行えるようになりました。感謝申し上げます。

また、資料を編集するに当たってご協力いただきました皆様に感謝いたします。

太田郷土史誌研究会会長 大住教夫

目次

第Ⅰ編 活動編	3
1. 2019 年度のあゆみ.....	4
2. 年度計画	5
(1) 活動事業名	5
(2) 活動計画	5
(3) 予算	5
3. 資料収集	6
(1) 昔の道具.....	6
(2) 古写真	6
(3) 宮脇光次氏に宛てた軍事郵便などの手紙 32 通（内、封筒のみが 4 通）	6
4. 史跡等看板、探訪 MAP 修正	8
5. センター講座「太田南のむかしを探ろう」（夏休み子ども教室）	9
6. 香川県立ミュージアムでの研修.....	10
7. 『太田南の昔ばなし第三集』の編集	11
8. 2019 年度太田南文化祭	11
9. 2019 年度「史跡と出水めぐり」ウォーク	11
10. 太田南小学校 3 年生の「地域学習」への協力	12
11. 出水ガイドブック（初版）の作成	13
第Ⅱ編 調査研究編	14
1. 令和元年 廣田八幡神社祭礼（西分頭家）記録 古澤幸夫	15
2. 高松空襲体験録 藤村 雅範.....	28
3. 「日露戦争と軍事郵便」 安藤みどり	34

第 I 編 活動編

1. 2019年度のあゆみ

2019年4月5日(金)	4月度	郷土史誌研究会
2019年5月10日(金)	5月度	郷土史誌研究会
2019年6月7日(金)	6月度	郷土史誌研究会
2019年6月10日(日)		太田南コミュニティセンターの一斉清掃に参加
2019年6月～7月		太田郷土史誌研究会で設置した史跡看板の点検、補修、 一部文章の修正を実施
2019年7月5日(金)	7月度	郷土史誌研究会
2019年7月25日(木)		夏休みこども教室「太田南のむかしを探ろう」
2019年8月2日(金)	8月度	郷土史誌研究会
2019年8月20日(火)		香川県立ミュージアムでの研修
2019年8月		「太田南の昔ばなし」(第三集)発行
2019年9月5日(金)	9月度	郷土史誌研究会
2019年10月4日(金)	10月度	郷土史誌研究会
2019年10月26日(土)		
・27日(日)	第36回太田南地区文化祭	
2019年11月1日(金)	11月度	郷土史誌研究会
2019年11月9日(土)		太田南の史跡と出水巡りウォーク
2019年12月6日(金)	12月度	郷土史誌研究会
2020年1月10日(金)	1月度	郷土史誌研究会
2020年1月17日(金)		新年会
2020年2月7日(金)	2月度	郷土史誌研究会
2020年3月6日(金)	3月度	郷土史誌研究会(新型コロナウイルス対応で中止)

2. 年度計画

(1) 活動事業名

2019 年度 郷土史誌探訪事業

(2) 活動計画

2019 年度は 2018 年度に引き続き、太田南地区の歴史や自然を調査し、成果を地区の人々に広く伝える。

- 1) 地域に残っている写真や資料の収集、記録、保存（通年）
- 2) 太田郷土史誌研究会設置の史跡看板の点検補修の実施
- 3) 夏休みこども教室（コミセン講座）への参加
- 4) 太田郷土史誌研究会メンバーの現地研修会
- 5) 『太田南の昔ばなし』（第三集）の発行
- 6) 太田南地区文化祭への参加
- 7) 太田南の史跡と出水巡りウォーク開催
- 8) 2019 年度 活動報告書作成

(3) 予算

高松市交付金	306,000 円
地元負担金	34,000 円
合 計	340,000 円

3. 資料収集

(1) 昔の道具

① かみなり

井戸の中に落ちたものを引き上げる道具



② はかりと分銅



(2) 古写真

「陸軍特別大演習 記念写真帖 大正十一年十一月」(古川氏寄贈)

(3) 宮脇光次氏に宛てた軍事郵便などの手紙 32 通 (内、封筒のみが 4 通)

○ 日露戦争従軍兵士の軍事郵便 31 通 (内、封筒のみが 4 通)

第 11 師団歩兵第 12 連隊第 1 中隊第 3 小隊 歩兵 1 等兵

藤井 太市 7 通

第 11 師団歩兵第 12 連隊第 7 中隊第 3 小隊 歩兵 1 等兵

前田 森次 3 通

第 11 師団野戦砲兵第 11 連隊第 6 中隊

森 早次 2 通

第 11 師団第 1 糧食縦列第 3 小隊 輜重輸卒

松本 茂太郎 8 通 (内、封筒のみが 3 通)

後備歩兵第 11 旅団後備歩兵第 43 連隊第 6 中隊 軍曹

大西 吉太郎 5 通 (内、封筒のみが 1 通)

後備歩兵第 11 旅団歩兵第 12 連隊第 2 中隊 1 等卒

前田 和平 4 通

第 14 師団歩兵第 54 連隊第 10 中隊 軍曹

宮脇 夢助 1 通

大日本帝国軍船千代田船機関部

若松茂十郎 1 通

○ 明治 17 年、徴兵入隊の挨拶状

廣嶋鎮台第 12 連隊第 3 大隊第 4 中隊第 3 小隊第 9 分隊

宮脇新太郎 1 通 (封筒なし)

* 「調査・研究編」の「日露戦争と軍事郵便」(P) 参照

拜啓時下朝夕餘程念老有拘
 催其地休道家法一流操益令
 沐健康之趣亦本悅之享也本行
 業降下往牛出外幸無里軍務從
 中阻其四名答沐休也ト云却說
 責表爾果沐懇切新開并
 沐送附本月十日着措沐揮
 願任言借時之沐訪聞可化
 言地軍々取孫途延引波在
 取事相重々言之不拍ラズ
 沐見捨世沐懇心々孫々
 深々奉鳴謝言先以愚書書
 沐禮堂々尚不沐家内

香川県香川郡太田村大字太田
 宮脇光次殿

出征第十一師團步兵第十二聯隊中隊
 步兵五等隊 藤井右衛門
 九月十一日出

出征第十一師團步兵第十一聯隊
 步兵五等隊 方十三郎
 前田和年
 二十八年三月九日出

出征第十一師團步兵
 步兵三聯隊 方七郎三郎
 前田和年

出征第十一師團
 步兵三聯隊 方七郎三郎
 森早次
 二十八年三月九日出

出征第十一師團第一糧食縱列
 第三中隊 輜重隊
 松本辰次郎

出征第十一師團步兵第十一聯隊
 步兵五等隊 方十三郎
 步兵五等隊 大西吉郎

出征第十一師團步兵第五
 聯隊 中隊
 車曹 吉田 辰次郎
 三月十日

大日本帝國軍
 千代田船務部
 若松茂十郎

4. 史跡等看板、探訪 MAP 修正

2015 年度の高松市ゆめづくり推進事業で作成・設置した史跡等看板や探訪MAPについて、3年を過ぎたことから内容や安全性について7月末までに再確認し一部修正した。きむら工芸とタムラ印刷に発注し、費用 43,956 円は太田観光協会にご負担いただいた。

①道池地蔵 (看板と MAP 修正)



道池（太田池）は、太田南地区唯一のかんがい用ため池である。平坦地にある皿池で、江戸時代前期には築造されていたと考えられる。池のほとりに立つ地蔵は、文政 13 年（1830）に旅人や子どもたちの安全を願って祀られたもので、現在の玉垣などは大正 12 年（1923）に整備された。地蔵堂の前の石碑によると、大正 13 年に桜楓 150 本が有志によって寄付されている。60 年ほど前には道池の北から西の土手一面が桜並木で、地域の運動会も行われていたそうである。

平成 27 年度 太田南ゆめづくり実行委員会 (令和元年改訂)

(探訪MAP)

道池（太田池）は、太田南地区唯一のかんがい用ため池である。平坦地にある皿池で、江戸時代前期には築造されていたと考えられ、史料には「宮池」「三千池」と記されている。池のほとりに立つ地蔵は、大正 12 年(1923)に地域の人たちが、子どもたちの安全を願って作ったものである。同時に桜 150 本が有志によって寄付された。

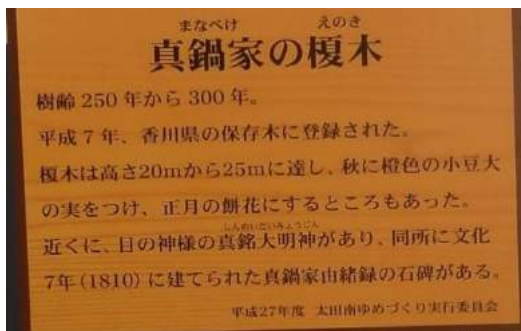


道池（太田池）は、太田南地区唯一のかんがい用ため池である。平坦地にある皿池で、江戸時代前期には築造されていたと考えられる。池のほとりに立つ地蔵は、文政 13 年（1830）に旅人や子どもたちの安全を願って祀られたもので、現在の玉垣などは大正 12 年（1923）に整備された。大正 13 年に桜楓 150 本が有志によって寄付されている。

(令和元年改訂)

②真鍋家の榎木 (看板撤去、探訪 MAP 修正)

(看板)



撤去

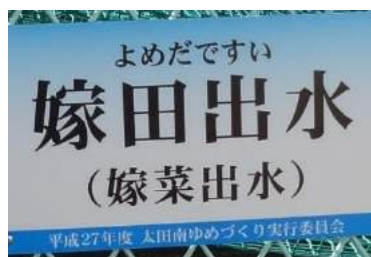
(探訪 MAP)

樹齡 250 年から 300 年。平成 7 年、香川県の保存木に登録された。榎木は、高さ 20m から 25m に達する高木。秋に橙色の小豆大の実をつけ、正月の餅花にするところもあった。近くに、目の神様の真銘大明神があり、同所に文化 7 年(1810)に建てられた真鍋家由緒録の石碑がある。



樹齡 250 年から 300 年。香川県の保存木であったが、寿命により平成 31 年に伐採された。榎木は、高さ 20m から 25m に達する高木で、秋に橙色の小豆大の実をつけ、正月の餅花にするところもあった。近くに、目の神様の真銘大明神があり、同所に文化 7 年(1810)に建てられた真鍋家由緒録の石碑がある。 (写真は平成 27 年撮影)

③嫁田出水の看板の文言修正 (作り直し)



5. センター講座「太田南のむかしを探ろう」(夏休み子ども教室)

7 月 25 日 (木) 10 時~12 時、コミュニティセンター2 階ホールで開催したが、参加者は子ども 1 人、大人 2 人と低調であった。

反省として、①夏休みに入った直後であり子どもたちの関心が宿題に向いていないので盆明けなど時期を選ぶ。②子どもたちからの発表など、子ども主体の講座にする。③宿題お助け講座にする。などが挙げられ、来年度に反映することとした。



6. 香川県立ミュージアムでの研修 特別展「祭礼百態」の見学

日時 8月20日(火) 10:00~12:00

参加者 10名

9:20 太田コミュニティセンター集合 出発

9:50 香川県立ミュージアム到着

まず、度肝を抜かれたのは1階に置かれた太鼓台やお舟。その大きさは迫力満点。

今回の特別展の企画に携わった瀬戸内海歴史民俗資料館長 田井静明先生の案内で「祭礼百態—香川・瀬戸内の風流—」を見学。

祭りと祭礼の違い、風流(民俗学では“ふりゅう”)とは何か。香川県の獅子舞と奴は全国屈指の数と多様性を誇っていること、西讃で発達した太鼓台(ちょうさ)など田井館長に詳しく解説していただき、あっという間の2時間だった。展示品も華やかで見ていると飽きなかった。

地元の廣田八幡神社でも、かつては祭礼行列で奴振があった。今は、ゴンタ神輿などが出て祭礼の賑わいを作っている。今年度、廣田八幡神社のお祭りの記録(準備からあと片付けまで)を残す活動を行っている。今を記録した貴重な記録となることだろう。



7. 『太田南の昔ばなし第三集』の編集
8月発行(500冊)、1冊100円で販売中。



8. 2019年度太田南文化祭
廣田八幡神社秋祭りに合わせて、
10月26日(土)、27日(日)に
行われた文化祭に今年も展示した。

9. 2019年度「史跡と出水めぐり」ウォーク

- ① 日時 2019年11月9日(土) 出発9:45 到着11:15
- ② コース 高松市健康づくりウォーキングマップ太田南お手軽 史跡巡りコースB
- ③ 参加者 一般11名 郷土史誌研究会8名
- ④ 配布資料等 コース表、太田南探訪MAP、ゴンタの缶バッチ、ウォーキング終了後、「打ち込みうどん」のふるまい



10. 太田南小学校3年生の「地域学習」への協力

太田南小学校3年生は、「地域学習」において、グループごとに調べる内容を決めて調査しその内容をまとめて発表されている。12月12日(木)に郷土史誌研究会大住会長、藤村さんが出席され、約1時間半にわたって3年生から質問を受け回答した。後日、児童の皆さんから丁寧なお礼のお手紙をいただいた。



	グループ名	質 問
1	広田八まん神社	いつ、何のためにたてられ、名前の由来は？どんな伝説があるのですか。なぜお祭りをしているのですか。どうして、大きなちんじゅの森があるのですか。
2	出 水	なぜ、出水があるのですか。太田で一番小さい出水は？ 合子出水はいつできたのですか。しかのい出水の桜の木は何本？出水のそうじはだれがしているのですか。
3	お地ぞうさん	えん命地ぞう、道池地ぞうの由来を教えてください。お花をあげたり、そうじをしたりしている人はだれですか。お地ぞう様にどんな思いでお供えしているのですか。
4	太田大根、太田まんじゅう	太田大根は、だれによっていつごろ、どれくらいの広さの場所で作られたのですか。今の大根との違いは？なぜ、太田まんじゅうにあま酒を入れたのですか。
5	西法寺、こんぴらとうろう	西法寺はいつごろ、だれが、何のためにつくったのですか。名前の由来は何ですか。西法寺はつくられたときからずっとこのこっているのですか。
6	太田池、けい馬場あと	太田池は、いつごろ、何のためにつくられたのですか。太田池にはどんな生き物がいますか。どうして太田池でけい馬が行われていたのですか。
7	熊野・秋葉大権現	権現は、いつ、何のためにつくられたのですか。熊野・秋葉大権現の名前の由来は？からすのごんすけの言い伝えはいつごろから、どうしてできたのですか。
8	茶園ぼ地	名前の由来は何ですか。何年前につくられたのですか。
9	太田天まん宮	太田天まん宮はいつ何のためにつくられたのですか。
10	前田家の長や門	前田家の長や門の名前の由来は何ですか、いつごろつくられたのですか。

1 1. 出水ガイドブック（初版）の作成

太田郷土史誌研究会は活動の一つとして 2017 年度から出水の調査を行っている。これまでの活動

2017 年 7 月 第 1 回「出水を語る会」（講師：新見香川大学名誉教授）

2018 年度 毎月 1 回現地にて出水調査

2018 年 12 月 第 2 回「出水を語る会」（講師：新見名誉教授、香川大学教育学部附属中学校小野先生）

をまとめて、今回『出水ガイドブック（初版）』を作成した。

かつての太田南地区にとって出水は農業や生活にとって重要な役割を担ってきたが、現在では、内場ダムや香川用水により水は豊富に供給されており、かつての役割は終わったように思える。

しかし、自然との触れ合いの場、観察の場、潤いの場、教育の場として、出水の新しい価値を見出す時期でもあると思う。今回作成した『出水ガイドブック（初版）』を積み重ねることにより、新しい出水の在り方の発見に繋がることを期待したい。



第Ⅱ編 調査研究編

廣田八幡神社の頭家は古くから、寺の元、東側、東分、西分、西下所の5つの部落（地区）が毎年順番につとめて来た。大正5年に太田原の今竹神社が廣田八幡神社に合祀された後は、5つの地区の頭家が大頭家、太田原の頭家が小頭家と呼ばれるようになったとのことである。

戦前までは、頭家株を持った地区の数少ない名士（約30株）が順番で頭家となり、全費用を負担し地区全員の協力を得て、1年間の神事のお世話を行ったとのことである。その労は、秋祭りの2日前に廣田八幡神社の神々が頭家の屋敷にお泊りになることで報われた。戦後、農地改革で頭家を務められる家が少なくなったことから、現在の様に地区全体で費用と労力を出し合って伝統ある頭家行事を守って来た。

頭家を受け持つ地区は、正月のしめ縄作りから始まり、春祭り、秋祭りまでの全ての神事を主催する。

しかし、現在では、神事を主催する人の数が少なくなりつつあり、経験、資金、人材の面から出来る範囲に限られ、神事の趣旨から外れない程度に少しずつ合理化されている。

令和元年の頭家を受け持つ西分地区においては、5年前に巡ってきた頭家地区の経験、前年の頭家地区の東分の経験及び櫻木宮司にお話を伺いながら進めた。

以下に、頭家地区が主催した神事の概要を記載する。また、本記録の最後に、香川県立ミュージアム発行の『祭礼百態—香川・瀬戸内の風流』の関係箇所を記し、廣田八幡神社と広く香川・瀬戸内地域で行われている祭りとの比較を試みた。

(1) 注連縄（しめなわ）用わらの調達

2018年秋に、粳（うるち）米藁に比べて長くてやわらかい、しめ縄づくりに適している糯（もち）米の藁を1年間分確保した。



(2) しめ縄の取り替え

正月、春祭り、頭家祭、秋祭りに、頭家地区は傷んだしめ縄を取り替える。正月は前年の秋祭りから時間があまり経っていないので取り替えるしめ縄の数は少ないが、春祭り、頭家祭、秋祭りの時は全てを取り換える。ただ、本殿、若宮、会館のしめ縄は神社総代にて何年かに一度取り替えられている。

約50名が参加する一大イベントである。



添付—1：垂がりとしめ縄の作り方 参照

それ程太くないしめ縄は3名で作成できる。人手不足の際は、事前に作っておくことも考えられる。

(3) 「歳旦祭」^{さいたんさい}

正月には、一年を祈念し雑煮、餅を振る舞う「歳旦祭」があるが廣田八幡神社では実施していない。このため頭家は、正月用のしめ縄の取替えのみ行っている。

(4) 「祈年祭」^{きねんさい}

春祭り前に、豊作・豊漁を祈願する「祈年祭」があるが、廣田八幡神社では行っていない。春祭り前の神社総代会で、稲苗床に立てるお札が配られている。

(5) 「市立祭」^{いちたてさい}

春祭り前に、「市立祭」があり、昔は廣田八幡神社でも行われていた。「市立祭」では春夏野菜の苗や鎌など農機具が参道で売られていた。

(6) 「春季例大祭（春祭り）」

春祭りは豊作・豊漁に加えて、一般の方の家内安全や家運向上も祈願する。春祭りでは一年の幸せを祈ることから、賑やかな獅子舞はしない。

① 宵祭り（4月27日（土））

午前中に太田南地区全体で、本殿、若宮、境内、参道を清掃する。頭家地区は前記清掃に加えて、お神輿の清掃・本殿への移動、奴立ての組立を行う。また、翌日の神事のお供えを届ける。（鯛等生ものは祭り当日に届ける）

お供えは、自然崇拜から生まれた神道が農耕文化と融合し、米・餅・魚・酒・乾物（海の物）・野菜・果物・塩・水が供えられる。

水・塩は山から海へ流れ来たもので神聖なものとされる。また、鯛が供えられるが、ボラ、チヌは悪食のため敬遠される。

19時から「御番」^{ごばん}が始まり、頭家地区の人々が本殿にて夜を神様と過ごす。昔は深夜まで行われていたが今は21時ごろまで行われる。

まず、西分地区の獅子のお祓いがあり、本殿前、若宮前、社務所前で獅子舞が行われる。その後、拝殿内で太田原地区の小頭家と酒肴で和やかに御番を行う。



(獅子のお祓い)



(御番)

② 本祭り（4月28日（日））

午前中に御旅所の四隅に立てた笹に南東の角から左回りにしめ縄飾りを行う。

しめ縄は鬼門である北東の角から張るのが通常であるが、廣田八幡神社の場合南側から神輿を入れる時にしめ縄を一部開放しやすくするために、南東の角から始めている。

14時30分より、本殿内に宮司、禰宜、踊人、楽人、頭家、次頭家、神社責任役員、地区代表、獅子、神輿担ぎ手、奴担ぎ手の合計80人程入り、神事が執り行われる。

15時くらいから神の膳（はんぺん、こんにゃく、たけのこ、人参、さや豆の煮込みをパック）が小餅、ごはん、お神酒と共に振る舞われる。

昔は一の膳、二の膳と豪華で時間もかかり、そのため祭りが深夜にも及んだとのことである。

神の膳終了後、16時くらいから、獅子を先頭に鉄砲(4)一弓(1)一長刀(1)一槍(1)一熊毛(白2本)一鳥毛(黒2本)一小傘(2個)一はさみ(2箱)一御幣(頭家、次頭、太田原、地区代表)一神輿(今竹)一神輿(廣田八幡)一宮司、禰宜、大きい傘(1個)の順に並び、お下がりが行われる。

お下がりの速度は獅子がコントロールする。昔は廣田八幡神社でも奴振りなどしていた。

また、お下がりの途中で神輿を担ぎ上げ、その下をくぐる（神様の下をくぐるのはこの機会以外にはない）ことも神社によっては行われているが、現在 廣田八幡神社では行われていない。

御旅所での神事は本殿内と同様に行われる。神事が終わった後、同じ隊列を組んで本殿に戻り最後の神事が行われ17時頃に祭りが終了する。

本祭り終了後、御旅所のしめ縄、神輿、奴などは当日に片付ける。

頭家地区で春祭りに関わった人の胴破り(慰労会)を廣田会館で行う。

(出席者約50人)



(6) 新嘗祭にいなめ

豊漁・豊作を祝う新嘗祭は、現在 廣田八幡神社では行われていない。

(7) 秋季例大祭（秋祭り）

秋祭りは、春祭りで行われた神事の他に「頭家祭」がある。また太田南地区コミュニティ協議会及び太田南育成会主催の太田南秋祭りが同時に行われることから非常な賑わいとなる。

① 頭家祭（10月25日(金)～10月27日(日)）

10月25日（金）14時40分から、廣田八幡神社本殿で神事が行われた後、応神天皇の分御霊わけみたまが獅子頭を先頭に春祭りのお下がりと同じ行列で頭家に到着する。分御霊は午前中にしつらえた祭壇と神棚に奉られる。

また廣田八幡神社のその他の神様の分御霊も、頭家の前に立てられた「おはけ」（頭家祭当日の午前中に廣田八幡神社に向けて立てる）を伝って頭家の祭壇と神棚に奉られる。

16時頃から、祝詞いわこと、舞（浦安の舞）、玉串奉納の神事が終了した後、屋内では直会（神様と共に食事をいただく儀式）、屋外では獅子舞が行われる。

獅子舞は頭家地区（西分）の獅子が最初に舞い、5つの地区の獅子が舞う。慣例的に鹿角の獅子が頭家祭期間中に頭家を訪れ舞う。

頭家祭の期間中、頭家は毎朝夕のお参りと水、酒、米、塩を毎朝取り替える。また、地区の氏子は昼間、奴を奴立てに飾る。

10月27日（日）秋祭り当日12時から頭家にて、応神天皇の分御霊が神社へ還幸する神事があり、頭家に來られたのと同じ隊列で神社にお帰りになられる。その他の神様の分御霊は「おはけ」を伝って廣田八幡神社に還る。

応神天皇の分御霊が神社へ発たれたら、「おはけ」、祭壇を直ぐに片付けなければならない。片付けられたものは、地元で再利用するもの以外



（頭家の前に立てられた「おはけ」高さ10m超）



は全て神社に納めなければならない。

「頭家祭」で特徴的なものは「おはけ」と言って、頭家の庭先に高さが 10m 以上で、上から榊、日の丸、鏡を模したしめ縄の輪、麻を取り付けた幟である。高さを 10m 以上にするのは昔の一般的な 2 階建ての家より高くするためとのことである。

(添付-2) 頭家祭の準備参照

(頭家祭の流れ)

1. 神事 16 時から
 - ① 祝詞 (のりと)
 - ② 舞 (浦安の舞)
 - ③ 玉串奉納
2. 直会 (なおらい) 17 時頃から
 - ① 頭家あいさつ ② 来賓あいさつ ③ 乾杯 ④ 会食
3. 獅子舞 17 時過ぎから前庭にて
直会で乾杯が終わり、まず頭家地区の獅子が舞い、続いて他地区の獅子が舞う。

(舞について) 廣田八幡神社記事を転記

1. 浦安の舞

昭和 15 年(1940 年)11 月 10 日に開かれた皇紀二千六百年奉祝会にあわせ、全国の神社で奉祝臨時祭を行うにあたり、当時の宮内省楽部の楽長であった多忠朝^{おおの}が作曲作舞したもの。

昭和 8 年(1933 年)の昭和天皇御製である

「天地の神にぞ祈る 朝なぎの海のごとくに 波立たぬ世を」が御歌であり、1 番は扇、2 番は鈴を右手に持ち舞う。御歌は 1 番も 2 番も同じ。1 人舞、2 人舞、4 人舞があり、舞姫が舞う女舞。

浦安の舞の制定により、女性の神社奉仕の機会が与えられたと言われている。

2. 豊栄舞

昭和 25 年 (1950 年) に雅楽の「越天楽」と東儀和太郎作曲の「風車」で構成した曲に、臼田甚五郎が作詞した歌詞をつけた舞。

- (1) あけの雲わけうらうらと とよさか昇る朝日子を神のみかげと 拝めば その日その日の尊しや
- (2) 土にこぼれし草の実の 芽生えて伸びて美しく春秋飾る花見れば神のめぐみの尊しや

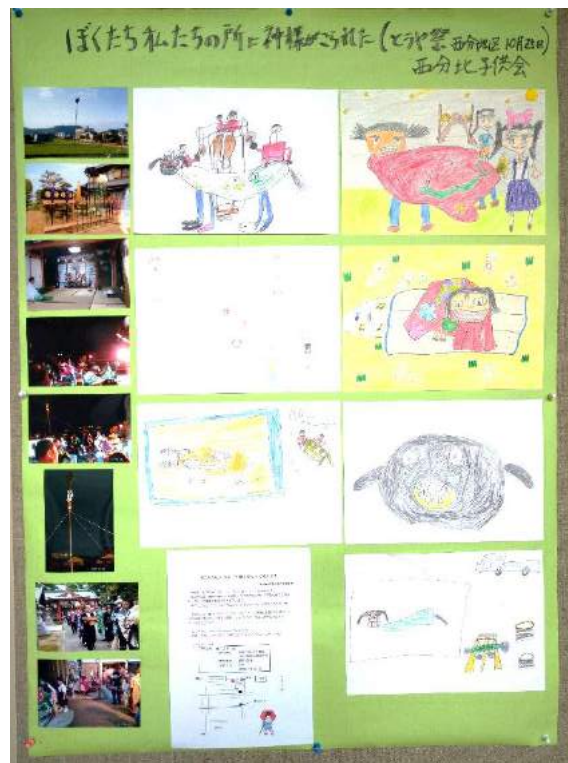
榊枝または季節の花枝を右手に持ち舞う。1 人舞、2 人舞、4 人舞があり舞姫が舞う女舞。朝日舞 (宮司舞) とともに、神社本庁制度の祭祀舞である。

(賑わい)

15年に1度の西分北・竹の鼻地区の頭家祭を広く住人の方にお知らせし、子ども会から20数人の参加もあって頭家祭が賑やかに行われた。



(獅子舞)



(子どもたちの思い出の絵)

② 宵祭り、本祭り

宵祭り、本祭りは春季例大祭と同じであるが、秋季はコミュニティ協議会、育成会主催の秋祭りと合同で行われるので非常に賑わっている。

(8) その他廣田八幡神社の神事

廣田八幡神社では毎月1日（元旦除く）に、氏子及び神社崇敬者の家内安全と繁栄を願って、月次祭つきなみさいが行われている。

(9) 香川・瀬戸内の祭りの中での廣田八幡神社の祭り

香川県立ミュージアム発行の『祭礼百態—香川・瀬戸内の風流ふうりゅう』によると、祭り行事の意味合いを大きく、「神を迎え、祭り、神人共食して、神を送る行事を『祭り』、そこに見物人が登場することで、神々だけでなく見物人を喜ばせる趣向『風流』に分けている。」

この考え方からすると、廣田八幡神社の祭りは、春秋の例大祭と頭家祭で、本来の「祭り」が忠実に行われている。また、見物人を喜ばせる「風流」として奴、獅子舞も行われている。西讃地区の「太鼓台（だんじり）」のような派手さはないが、6つの地区それぞれに獅子組があり、頭家祭、秋祭りに賑わいを加えている。

この他、廣田八幡神社の秋祭りに合わせて、小中学生も含む地域のイベントが行われ多くの人々が参加し楽しんでいる。これも新しい形の「風流」かもしれない。



(添付一) 垂たれがりとしめ縄の作り方

1. 垂れの作成

藤村雅範氏に、鳥居のしめ縄に取付ける垂れ（たれ）の作成方法を教わった。垂れの中は、作成前の藁の一握り（直径約4cm）で一律に決め、長さやしめ縄づくり当日しめ縄に取り付ける時、長さを揃えて裁断することとした。

しめ縄と垂れの間隔は5cm程度とした。

(1) 藁の袴を出来るだけ取り払う (①)

事前に飼葉切りで藁の扇端を1cm程切り先端を揃えておくと楽に袴が取れる。



(2) 木槌で藁を叩き柔らかくする (②)

事前に藁を少し水で湿らせておくと、後作業が楽であるが、湿らせすぎると縄の耐久性が悪くなる。



(3) 垂（たれ）としめ縄を結ぶ縄を作成する

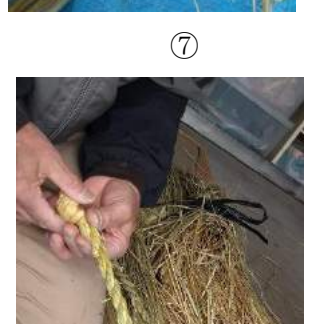
・藁20本を取り垂（たれ）をしめ縄に取付けた時抜けやすい藁の根元の所で拳を作る。(③)

・藁を10本ずつ左右の手で握り左巻きに振じる。(④)

・2つの藁の塊を、両方の手のひらで挟み擦り合わせるように左手を前に、右手を手前に引いて、2つの藁の塊をそれぞれ右巻きに振じる。(⑤)

・縄の先端部分を2股にして、垂れをしめ縄に結び易くする。(⑥)

・完成 (⑦)



(4) 垂れ用の藁一握り（直径 4cm 程度）
りを取る。藁を折り返すところを、木
槌で叩いて柔らかくしておく。(⑧)



(5) 先に作った縄を、一握りの藁の中央に置
く（向きは反対方向）。出来上がった時
に、垂れから抜けないう、また折り曲
げた時の形が良くなるように少し太い
紐で縛る。(⑨,⑩)



(6) 藁を周りから順番に形を整えながら折
り返す。しめ縄に取り付ける縄が、垂
れの中央になるように気を付けるこ
と。(⑪,⑫)



(7) 折り返しが終了したら、垂（たれ）が
ばらけないように適当な個所を紐で縛
り垂れの長さを揃えて完成。(⑬,⑭)



2. しめ縄の作成

(1) しめ縄用藁を数十本（完成したしめ縄の太さと長さにより変わる）を取り藁の元の所を紐で縛る。(15)



(2) リーダは、縛った藁を両手で持ち2組の藁の束に分ける。リーダは2つの束を左巻きに捩りながら、2つの藁の束を右巻きに捩じる補助者Aと藁を補充する補助者Bを指導しながらしめ縄を作っていく。(16,17)



(3) リーダはしめ縄の長さと太さを考え、補助者Bに、補充する藁の本数を補助者Aに渡すよう指示する。補助者Aはリーダの指示に従い藁を補充する。(18)

(4) まずは2つの藁の束で2本組ねじりのしめ縄を作る。(19,20)



(5) しめ縄は3本組ねじりで作るので、2本組ねじりで作ったしめ縄の元の所に、3本目の藁の束を添えて縛る。(21)

(6) 3本目の藁の束を補助者Aが右に捩りながら、リーダが出来上がった2本組ねじりの溝の上に1溝飛ばしで置き、左巻きに締め上げていく。(22)



(7) ハサミでケバを取って出来上がり。(23)



(デモンストレーションで作った3本組しめ縄に垂れを取り付けたもの)



(頭家の玄関に取付けられたしめ縄と垂れ、紙垂^{しで})



(添付-2) 頭家祭の準備

① 「おはけ」

a) 青竹の準備

今回「おはけ」用の12mの青竹を、頭家祭の半月程前に確保した。青竹の切出し、運搬は大変であった。田んぼの真ん中に立つ「おはけ」は神々しいものであったが、青竹の運搬を考えると、5~6mの青竹を繰り返し使用できるポールに取り付ける方法など、今後、費用面、労力面、設置スペース面から「おはけ」については、神事の趣旨を全うする範囲で工夫をしていく余地がある。

b) 「おはけ」の製作

神社から来られる神様が最初にとりつく「おはけ」は、頭家祭当日の午前中に立てる。そのための準備として前日に、「おはけ」を製作する。

「おはけ」の製作は、まず青竹を先端から4m程割り（割れすぎないようにホースバンドを事前に取り付けておく）、御幣、鏡（しめ縄に紙垂を付けたもの）、日の丸（3ケの日の丸の扇子を組合せたもの）、麻を順次取り付け、最後に先端に榊を取り付けて完成する。



③



④



⑤



⑥



②祭壇まわり

祭壇を中心に笹、しめ縄、櫛を使用して飾り付けしていく。特に工夫したことは、祭壇前のしめ縄取り付け用の笹の支柱と、部屋の各隅の笹の固定の仕方である。

しめ縄に付けるシデの向きであるが、部屋の中から見た場合、祭壇前のしめ縄と3つの部屋に巡らせているしめ縄に付けている紙垂の向きが逆になっている。この理由は、部屋の中は屋外から見て内側であるが、祭壇からは外側になっているからで、紙垂の付け方一つとっても決め事がきちっと守られていることが分かる。

(頭家祭の飾り全景)



(前日準備)



(頭家祭の飾り付けの工夫)

1. 祭壇の前のしめ縄取り付け用の笹の支柱

従来の畳の縁に割り箸を立てる方法に比較して、畳の傷みが無い事、祭壇前のしめ縄の位置を自由に変えることが出来て祭壇前のスペースを有効利用できる。



2. 各隅の笹の支柱の元のところの固定の仕方

L字金具と畳用押しピンを利用し、畳を傷めずに笹を止める方法を工夫した。



2. 高松空襲体験録

藤村 雅範

倉敷飛行機工場南寮

(当時 14 歳)

空襲前夜

7月3日

1日の訓練も終わり、私たち倉敷飛行機工場南寮も午後9時で消灯である。私は、階段ベッドに這い上がり横になった。まだ眠ってはいなかった。突然、全員起床のベルが鳴った。10時にはまだなっていない。何が起きたのか分かつるはずもない。私たち1年生は、当然のことながら飛び起き、着衣を整え、分隊ごとに1階の廊下に整列した。

「全員集合異常なし。」3年生の班長が寮長に報告した。緊張が高まる。

寮長(配属将校、陸軍中尉)は、軍刀を床に立て、待っている。

「注目」班長の声。しばらく経った。寮長の声は冷静だった。

「南寮は、これをもって閉鎖する。全員、今すぐ帰宅せよ。今後の行動は、追って指示を待て。以上。」

私たちには、分からないことばかりだが、とにかく今すぐ帰れるのだ。うれしい。4月以来の厳しい寮生活から解放される。我が家へ帰れる。飛び上がりたいほどだ。みんなのざわめきが寮内に響く。

私はすぐに寮を出た。振り返ることはしなかった。一宮から来たK君が同班であったので、一緒に西へ出た。琴電の電車道を南に帰ることにした。2人はただ黙って線路上を走るだけだ。太田駅近くでK君と別れた。私は我が家めがけて、東へ走った。

帰ったのは、もう真夜中の12時近かった。喜ぶ家族に囲まれて、久しぶりに母の手料理を食べた。何があったのか。みんなが心配そうに私を見る。言いたいことばかりで、寝るひまもない。

高松空襲

7月4日

私が寢床に着いたころは、もう7月4日の朝近くになっていた。

ドドドド・・・と、台所の窓ガラスが大きく響いた。北の空がうっすらと赤くなり、ウォーン、ウォーンと飛行機の爆音、「アッ、B29だ。空襲だ。」高松がやられだした。弾は空中で炸裂し、小さな火玉となって滝のように降り注いでいる。ドドン、ドドンと大きな爆弾の破裂する音も聞こえる。

B29の機影が下からの光ではっきり映っている。何機かが見える。屋島の北端あたりから打ち上げる高射砲の赤い弾が、どれも放物線を描いて地上に落ちる。B29は、赤い弾の到達高度を知ってか、少し高いところをすれすれに飛ぶからだ。撃ち上げた弾がB29の近くで破裂する時もあった。B29の大きな翼がかすかに揺れた。

やがて、北の空は真っ赤に染まり、サイレンの音、半鐘の音、家の燃える音、逃げ惑う人の叫びが、ザーという轟音となって響く。

紫雲山の北あたりから、屋島の西にかけて、白や黒の煙と、赤い炎とキラキラする何物かが輝き、空全体が逆巻いて見える。

東の空が白みだした。私の家の近くの伏石多肥街道は、逃げる被災者で行列である。焼け焦げた布団を抱えた親子。手に手に持てるだけでもっている年寄り連れ、何も持たずに、ただ呆然とする若者。話す人は誰もいない。

もう、空は薄っすら明かるくなった。空襲は終わった。町は一面の煙である。

私は町へ行かなくてはならない。何かの連絡があったかもしれない。南寮が心配だ。母に弁当を作ってもらった。編み上げ靴にゲートルを巻いて、制服姿で飛び出した。

空は明けた。風はない。白と黒の煙が渦巻く空から青空が見えてきた。その時、ゴーという爆音とともに B29 が雲間から現れてきた。大きかった。北から南に向かって超低空飛行であったが、地上からは何の抵抗もなかった。林飛行場は至って静かであった。

8時はもう過ぎただろうか。通る人はまだまだ多い。私は、人をかき分けるようにして町へと走った。

栗林駅辺りはやられていない。駅の北側へ行きたいのだが、まだ燃え方がすごくて近づけない。私は、栗林小学校の北側の道を西に向かった。中野町あたりはよく燃えていた。時々、ドーンと何かが破裂する音がする。人の叫び声のようなものも聞こえる。油くさい匂いが立ち込めていた。私は走り抜けた。熱風で体が燃えるように熱い。のども痛い。防火用水の水を頭からかぶる。飲む。そして走る。公園の北側の線路の近くで男の人が倒れていた。空から降ってきた火の玉の直撃を受けたのだろう、頭が裂けて、脳みそが肩から背中に流れていた。北門から少し北へ行った所に橋がある。水はあまりない。近くの住民が防空壕がわりに逃げ込んだのだろう。中から「水、水、水、・・・」と、水を欲しがるときの声が聞こえた。

私はそこを通りすぎて、山ぎわを西へ向かった。通る人は殆どない。八幡さんの前を北へ行くのは私だけ。この辺りは焼けていない。もうすぐ工芸学校だ。

工芸学校の南東のすみに南北に長い教室がある。ここが、私たちの道場である。倉敷飛行機製作所の作業訓練場である。

しばらく居たが、誰も居ないし誰も来ない。運動場の西側に井戸があり手押しのポンプがある。そこで水を飲み、握り飯を食べた。

ふと、黒板の横にある張り紙に気が付いた。

「倉飛生徒に告ぐ。連絡場所は花園小学校。以上」

かなり待ってみたが、誰も来ない。町の火勢もだいぶ弱まった。出発だ。藤塚へ回ろう。燃えているというより、くすぶっているという感じ。煙はまだ酷い。匂いもきつい。通れそうな町筋をあっちこっち選びながら、東へ走った。湯のようになった防火用水の水を頭から被り被り走るのだが、すぐ乾く。また被る。

中新町のロータリーの所まで来た。ロータリーの水槽の周りは、死人の山だ。水槽に飛び込んで死んだ人たちを引き出している数人の男たちにつかまった。着ている法被の様子から、警防団が出張しているらしかった。

「これから東は会社や軍関係の工場も多く、まだ燃えているし、爆弾で道もやられて通れない。南の方へ行くのが安全だ。」と教えてくれた。

煙がいっぱいだが、姿勢を低くして見ると、案外遠くまで見通せた。私は何とか琴電の電車道まで来たが、線路の東側の被服工場の倉庫がボンボン燃えていて、藤塚の方へは渡れない。諦めるしかない。線路の西側を南へ走った。

藤塚を目指すわけは、ここに私たちの道場、南寮があるからだ。世話になった寮母のおばさんや小さな子どもが心配だし、近所の人の様子も気にかかる。線路の横の木陰で残りのむすびを食べた。水は近くの庭の天竜水の水を貰って飲んだ。

花園小学校に着いた。昼は過ぎていた。人はかなりいたが、知っている人は誰も居ない。もう少し待ったが、誰も来ない。

警防団の人が死体を板に乗せて担いで来た。死体は運動場の中ほどに集めるらしい。死体

が小高く盛り上がって見える。けが人や、息のある人は教室に運び込まれる。白衣を着た医師や看護婦が、患部に白い包帯を巻きつける。呻く声はするが、騒いだりする人は見かけない。もうそこまでの力がないのだ。死んだら死体置き場に移す。

私たちへの指示らしいものは何もないし、用もない。南寮と倉飛の工場は、明日行くことにして、今日は帰ることにした。

家に帰った。聞くと今朝の空襲で、太田の西下所のあたりでも、何軒か焼けたらしい。こんなに町から離れた所に爆弾を落としたなんて、余った弾だから、帰りがけに捨てたところだろうか。

栗林に住む姉が避難して帰って来ていた。焼け残っていたのが後で分かり、とても喜んでいた。

7月5日

朝8時ごろに花園小学校に着いた。同僚の1人が来ていた。今日一日、一緒に行動することにした。

まず、南寮へ行った。爆弾が落ちたのか、寮は吹っ飛んで跡形もない。庭に掘った防空壕へ行った。壕の上には、焼けて乾いた土がどっさりかかっていた。手で払って入口の蓋を開けた。入口の下すぐに、寮母のお婆さんと子どもの顔があった。抱き合った顔は共に真っ黄色で、出ようとしていたのか、上をむいたまま死んでいた。2人でそっと蓋を閉じた。私たちがあのまま南寮にいたら、こうしてここに立っていることはなかったのだ。手を合わせてしっかり拝んだ。

2人で倉飛の工場へ行った。ギザギザになった工場の屋根はどれも爆弾でぶっ飛ばされて無残というほかはない。何人かの人が来ていた。北西の豚小屋がやられて、豚が全滅したと話していた。

私たちは倉飛の工場を引き上げて、瓦町辺りの焼け跡整理に行った。別に、何処へ行けと言われたわけではない。腹が減ったので、崩れ残った土塀の陰で弁当を食べた。水筒は2人とも持って来ていた。

足もとのトタン板が邪魔になったので、引きずって除いたら、下に人の白骨死体が出てきた。もとのようにトタンをかけてやり、他の場所へ移動した。

昼過ぎ、南東の空が騒がしくなった。無数の小型機が乱れ飛んで来る。戦闘機グラマンだ。アブのような型の濃い紺色の戦闘機だ。あつという間に上空に来た。私たちを見つけて執拗に機銃を撃って来る。体のすれすれまで弾が飛んでくる。私たちはそのたびに土塀の反対側にまわる。南から来たら北側へ、北からなら南側へ、東からはあまり来ない。西からは来られないのが分かっている。西に山があるからだ。操縦士の白いマフラーと飛行メガネが地上からもはっきり見える。

グラマンは艦載機だから、滞空時間に限度がある。やがて、一斉にグラマンの姿がもと来た南東の空に消えた。南方海上の空母に帰ったのだろう。

用もないので、花園小学校に帰った。

身内を探すような素振りの人が、教室へ入ったり出たりする。見つかったようにもない。トラックが死体を集めて運んできた。運動場の北寄りの所は、死体が山のように積み重ねられた。あたりは死臭がひどくて近づけない。死体は、後で油をかけて焼くそうさ。私はそれを確かめたかったが、確かめる機会もなかった。

昼が過ぎた。ここに居る用事もないので、2人は家に帰ることにした。後で仲間から聞いた

話では、倉飛の工員、明朝 8 時に栗林駅に集まるよう指示があったらしい。明日から新しい任務に就くことになった。

高松空襲余談

1 尋常の心

生死の境にある人間の判断は、こう働くものか。

焼け焦げた布団を抱え、泣く子を背中に縛り、素足で走る親たち。食べ物もない、行くあてもない。

なのに、道端に盛り上げた米俵に手も突っ込まないし、畑に入ってきゅうりやトマトを一つとして口にするでなし、盗ろうともしない。平常心か異常心か。人間ってすごい。

2 敵の行動を、どうキャッチしたか

南寮の閉鎖は、どこで、どう決まったのか。高松の爆撃は、何日の何時から始まり、どう展開するのか。逃げるには、どこが安全か。以後はどうなるのか。軍関係者間では、きっちり織り込まれていたにちがいない。

聞いた話だが、寮長たちは、その後、宵のうちから春日川の土手に陣取り、敵の空爆を眺めていたという。

3 防空壕は安全だったか

多くの女や子どもが、自分の家の防空壕で命を落とした。空襲警報のサイレンで防空壕に飛び込む。大きな壕をもつ家では、近所の人もそこに集まる。爆弾が近くに落ちたり、艦載機の銃撃なら少しは助かるが、真っ赤に焼ける炎の中ではひとたまりもない。

焼けた板べいの奥から這い出ようとして力尽きた女の子の手に、炒り豆の袋がしっかり握られていたのが、憐れで忘れられない。

4 無関心かそれとも箝口令が出ていたのか

新しい任務のため、私たちは毎日 8 時に栗林駅から列車に乗り、牟礼の大町で飛び降りる。駅でもない途中で下車するわけだ。人数は分からないが、かなりの人が降りる。無賃である。帰りもまた、ここに列車が停まり、乗って栗林駅まで帰る。

私の仕事は、大きな山をくり抜いた穴の中から、不要になった廃材や鋼材を、少しずつ担ぎ出すことだ。どれだけ出せばよい、という割り当てはない。他の工員たちは殆ど手伝う気配がない。

洞窟に入ってびっくりした。広いし、天井は高い。奥には旋盤の機械がしっかり並んでいる。灯りが暗くて、機械がどれだけの数で、どこまで続いているのか分からない。凄いのに驚く。外はまぶしい。

外に出たらみんなは池の土手に寝そべて休んでいた。池の中に、魚がいっぱい泳いでいるのが見える。

明日は釣り具を持ってきて、釣り競争をやろう、と提案があった。みんな大賛成だった。釣り大会は盛況だった。釣った魚は土手に掘った穴で焼き、弁当のおかずにして食べた。いったいこの人たちはどうなっているのか、明日からのことが心配だ。

何日かしたある日、私は山の中の洞窟が気になって、内部の施設を一つ一つ思い出していた。

その時である。ものすごい地響きと共に、山の側面が崩れた。土や木、石の破片が私たちの居るところまで飛んできた。穴の入口は赤い地肌を見せてすっかり覆われ、山の姿が一変した。山崩れは、他の入口でも起きていたが、誰も言い出す人はいない。私たちの仕事はなくなった。次の日から、私たちは海岸へ移された。海岸の木陰は涼しくて、昼寝ばかりしていた。

終戦の玉音は、塩屋の海水浴場で聞いた。軍人らしい2人が砂浜に手をつけて泣いていた。みんなは静かに聞いた。敗戦。私には、この日がもう少し早まるような気がしていた。

大町の山の洞窟工場爆破事件は、私にとっては大事件だったが、誰もそのことを語ろうとしない。大町の住人に尋ねても知らないという。軍政下の厳しい時代のことだから、誰からか、何らかの圧力がかかったのかも、と思ったりする。

5 米軍もこしゃくなまねをする

高松空襲の前にも、飛行場周辺で爆弾攻撃を受けたことがある。爆弾は電車を挟んで両側に大きな穴を開けた。飛行機の滑走路には、爆弾を落としたが、飛行機の格納庫には一つも落とさなかった。高松空襲でも、玉藻城、高松駅、栗林駅、高松港、それに、名園栗林公園も無事だった。同じことが東京は勿論、他の地域でもいえる。

6 南寮で培われた、質実剛健、義勇の精神はいったい何だったのか

私たちは、陸軍少年飛行兵として志願し、厳密な検査の末採用された。任地は倉敷飛行機工場、籍を南寮に置き、日夜厳しい訓練を受けた。

しかし、7月3日夜の「南寮閉鎖」以降は、まったくの無位無冠、誰からの指示も命令も来なくなった。まさに行く当てのない放浪の日々であった。

思い出は尽きない。ここに南寮の寮歌を記して、当時を回顧することにした。

春 あいたいの紫雲山
万朶の桜 咲き匂う
古き城下の 高松に
集う讃州 若櫻
我等の 道場 嗚呼 南寮

記録 令和元年7月4日

*** 倉敷飛行機株式会社高松製作所**

東京飛行機高松製作所が倉敷紡績に買収されてできた会社。昭和 19 年 10 月に倉敷飛行機と改称され、高松と坂出に工場があった。高松製作所は松島町（現在の高松商業高校とその付近）の紡績工場を飛行機工場に転換したもの。訓練用飛行機を製作した。市内の高等女学校生徒（高松高女・市立高女・明善高女）の勤労働員もあって、昭和 20 年 7 月 4 日の空襲で工場が全焼するまで 2～30 機が製作された。

出来上がった練習機は主翼を外してトラックで牽引輸送されて香川郡多肥村の組み立て工場（現在、県警機動隊の敷地）に運び、組み立てた後、誘導路を通して高松飛行場に運び、試験運転の後、各地に空送された。

（参考文献『高松空襲戦災誌』昭和 58 年）



1947 年米軍撮影 国土地理院提供



倉敷飛行機高松製作所の焼け跡
（高松市平和祈念館提供）

3. 「日露戦争と軍事郵便」

安藤みどり

〔太田村から出征した兵士たちの手紙〕

一 はじめに

香川県香川郡太田村大字太田（現、高松市太田上町・下町）は、高松平野の中央部に位置し、現在は高松市郊外の住宅地として発展しているが、日露戦争当時は田畑の広がる豊かな農村であった。昨年、明治期に旧太田村の村会議員などを務めた宮脇光次氏の資料を整理していたところ、中からたくさんの手紙類が出てきた。粗末な封筒入りで、虫食いがひどく、中にはボロボロになったものもある。

驚いたことに、これらは百年以上も前の日露戦争中、太田村から出征した兵士たちが戦地から宮脇光次氏にあてて送った手紙―軍事郵便―であった。保存状態が悪い中から、何とか32通の手紙（内、封筒のみが4通）―差出人は9名―を拾いだし解読することにした。私たちは、太平洋戦争より前の戦争についてはあまり知らない。日露戦争とはどのような戦争だったのか。太田村から遠く離れた大陸で戦った彼らは、どんな思いでいたのか。手紙を通して、兵士たちの生の声を聞いてみたい。

二 日露戦争と軍事郵便

(一) 日露戦争

① 日露戦争関係年表と地図

日露戦争では約百万の陸軍将兵が動員された。

まず、四国の兵士たちからなる第11師団を中心に、日露戦争の経過を年表と地図で見よう。（第11師団所属の歩兵第十二連隊は丸亀に編成された連隊で、香川県出身者が所属）

日露戦争関係年表（『歩兵第十二連隊歴史第三巻』より作成）

明治37年（1904）	2月8日	日露戦争勃発
	4月19日	第11師団に動員令
	5月21日	師団、詫間湾（香田）より乗船出港
	6月6日	師団は第1、第9師団とともに第3軍の戦闘序列に編入され、旅順要塞攻撃に参加
	7月	ロシアの要塞旅順攻撃開始
	8月19日より	第3軍、旅順第一回総攻撃
	10月26日より	旅順第二回総攻撃
	11月23日より	旅順第三回総攻撃
明治38年（1905）	1月1日	旅順のロシア軍降伏し、要塞開城。百五十五日間の包囲戦終結
	2月15日	第11師団、第3軍から離れ新設の鴨緑江軍の戦闘序列に編入
	2月20日	師団、鳳凰城に到着
	2月23日	師団、城廠に到着
	3月10日	奉天会戦に参加、撫順攻撃
	3月11日	満洲軍、奉天占領
	5月4日	師団、撫順城占領
	5月27日	師団、英額城に進出
	9月5日	日本海海戦
	9月16日	ポーツマス講和条約調印
明治39年（1906）	1月9日より	凱旋のため、奉天停車場出発、大連に向かう
	1月12日	第11師団司令部、多度津港凱旋

② 日露戦争と第11師団
 四国を管区とする第11師団が善通寺村に設置されたのは明治29年、日清戦争後の軍拡の時代だった。日露戦争勃発で、第11師団の将兵は詫間湾の香田から出征した。師団は旅順攻撃の第3軍に属し

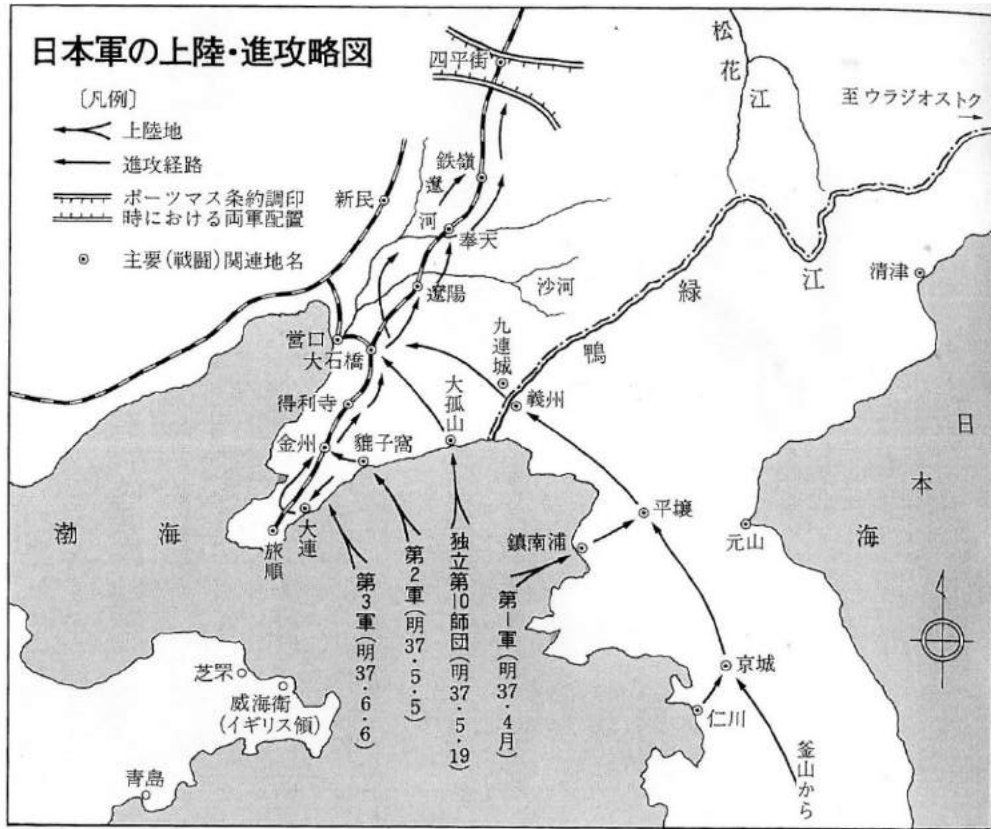


図1 『写説 日露戦争』より

たが、司令官は奇しくも初代師団長の乃木希典だった。旅順要塞攻撃で多くの犠牲者を出したのは周知の通りである。

旅順攻略の後、第11師団は第3軍を離れ、後備第1師団とともに新編成の鴨緑江軍に入り、奉天会戦に参加した。実は奉天会戦こそが日露戦争最大の会戦であると同時に、最高の損害率を出した厳しい戦いであった。すなわち、第11師団は旅順攻略戦と奉天会戦の両方で多くの犠牲者を出したのである。(注1)

その結果、香川県出征軍人1万8176名中戦死・戦病死者は2346名にのぼった。これは出征軍人の12.9%で、実に8人に1人の割合である。

③ 第11師団の北進と奉天会戦

旅順開城で一息つく間もなく、第11師団は新設の鴨緑江軍の隷下となり、ロシア軍との決戦に間に合うようにと徒歩で北へ移動した。北進開始が1月20日というせわしなさであった。冬装具の完全武装は重さ16キロもあり、厳寒の満洲の行軍は困難を極めた。

『歩兵第十二連隊歴史第三巻』には、次のような記録がある。

「一月二十七日 晴時々降雪
 一面の銀世界。通路河川の別なく、地は凍結して鏡上の如く、寒風は膚を刺し、手足為に知覚を失わせんとする(中略)
 行軍景況、左の如し。
 一、各大隊共、数日來の積雪凍結して、歩行頗る難ということ。



写真1 善通寺駐屯地前に建つ石碑



写真2 旅順要塞のコンクリート片(乃木資料館)

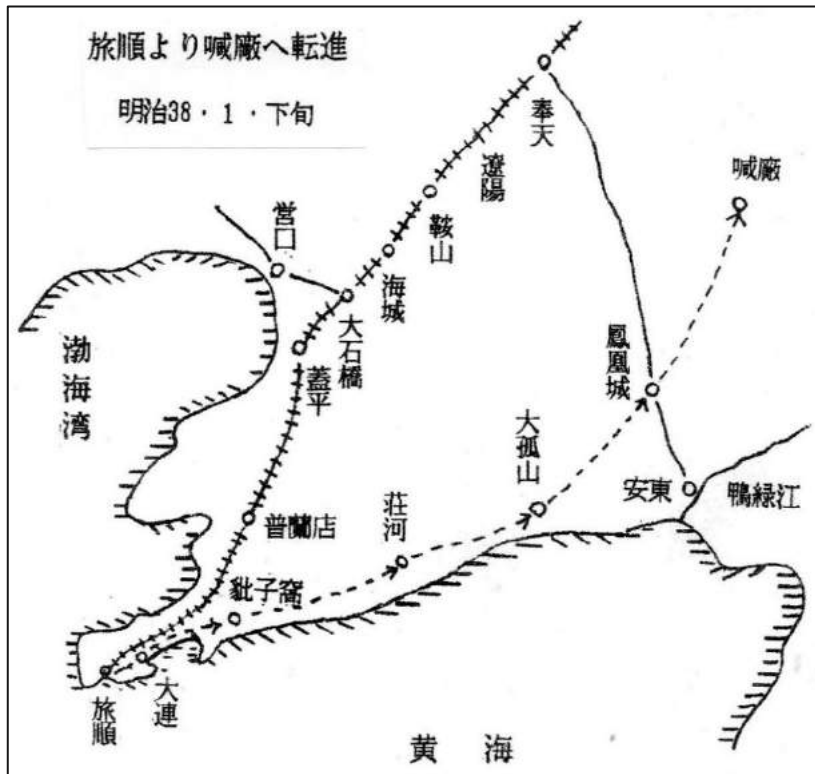
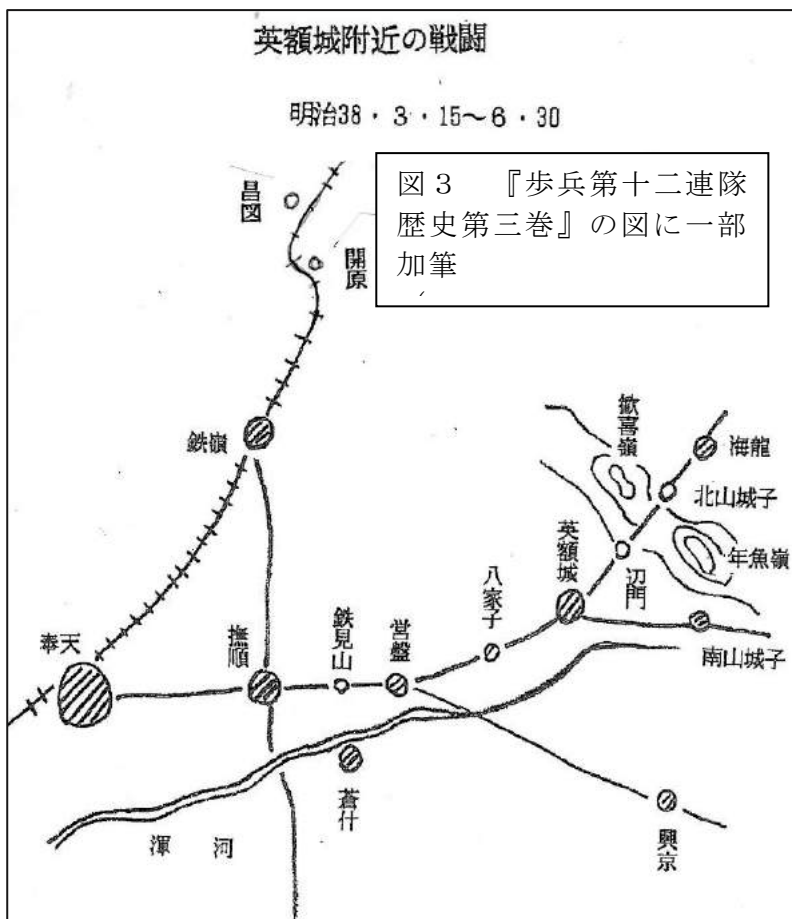


図2 『歩兵第十二連隊歴史第三巻』より
(-----→で行軍の経路を加筆)

加之、坂路に於ては滑走殊に甚しく、為めに歩行難を極めし爲、
 (中略) 続々落伍者を生じ、加之、行李の駄馬は氷上蹄鉄改装
 なき為、時々倒れて列間距離を長大ならしめ、為に歩兵後続部
 隊の行軍を実に甚敷躊躇せしめたり。(後略)」
 温暖な香川県から出征した兵士たちにとつて、冬季の平均気温が
 零下20度という満洲の寒さは想像もつかないものであつたらう。そ
 の上雪が相当深く、約400kmの行軍は厳しかった。



奉天会戦は、第11師団の城廠到着の直後の2月22日、鴨綠江軍の
 撫順方面への進撃開始から始まった。鴨綠江軍はロシア軍総予備隊
 を引き付けるおとりとなつて激戦を戦い、日本軍は辛うじて会戦に
 勝利したものの、多くの死傷者を出している。
 奉天会戦の後も、鴨綠江軍隷下の第11師団は營盤や英額城付近で
 小規模な戦闘を続け、5月4日英額城に入った。その後は、戦闘も
 しだいにおさまり、ポーツマス条約締結後の休戦命令を経て凱旋す
 る翌年1月までこの付近に宿営した。

(二) 軍事郵便

軍事郵便は戦地にいる兵士と故郷をつなぐ唯一の手段で、日露戦争中内地からと戦地からと、合わせて4億6千万通にのぼった。日清戦争と比べ、動員数・死傷者数ともにけた外れに拡大した戦争であつたことが郵便の数にも表れている。

原則として戦地の兵士からは無料で、内地から兵士あては正規料金が必要だつた。戦地では野戦郵便局が集配し、郵便物の表面には朱で「軍事郵便」と記した。手紙の内容については「検閲」があり、検閲済みの印が押された。ただ、後の時代と比べると検閲は緩やかだつたという。

残された手紙を見ると、粗末な封筒に、墨であて名を書き、「軍事郵便」と「検」の朱印が押されている。中身は、便箋を使っていたのは1通のみで、適当に切った巻紙に墨書きされたものが多い。墨、筆、紙は兵士の必需品だつたのだろう。軍事郵便は10日から半月ほどで故郷に着いたようだ。

三 太田村から出征した兵士たち

(一) 出征軍人数と戦死者数

『讃岐香川郡志』によると、太田村（明治23年に旧太田村・伏石

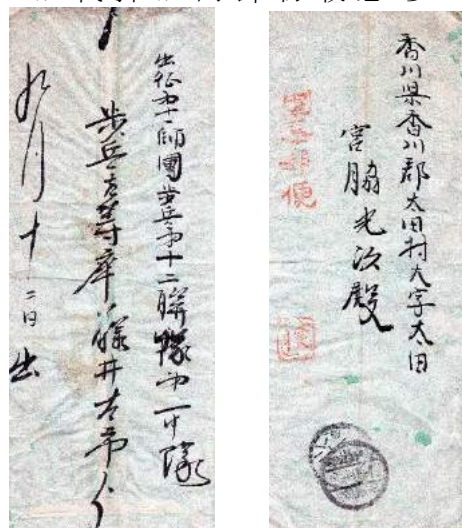


写真3 藤井太市の手紙の封筒（表と裏）

村・松縄村・今里村・福岡上村が合併して太田村となった）からは138人出征し、戦病死者は20人である。出征軍人に対する戦没率14.49%となり、全国平均の8.7%どころか、香川県の12.9%よりも高率である。（注2）

太田村の戦死者20人の内11人が旅順包囲戦の最中、東鶏冠山でおそらく第3回総攻撃中に戦死している。（注3）



写真4 伏石神社境内に建てられた太田地区（太田・伏石・松縄・今里）戦没者の頭彰碑（昭和40年建立）

(二) 第11師団と後備歩兵第11旅団と第14師団

手紙を残した9人中、日露戦争関係は8人。内訳は、陸軍が7人、海軍1人。陸軍の7人の内、第11師団所属は4人、後備歩兵第11旅団所属が2人、第14師団所属が1人である。

日露戦争は、歩兵の大量消耗戦であつた。現役兵の第11師団は旅順包囲戦で予想外の戦力消耗に直面した。そこで陸軍は補充のため、まず後備兵を動員した。後備兵とは、現役3年、予備役4年4か月を終了した後、後備役5年に服役中の者から召集した兵で、満27歳から満33歳までの年齢が該当した。明治37年6月、後備歩兵第12、

第43連隊の動員が発令され、これらをもって後備歩兵第11旅団が編成された(善通寺)。前田和平と大西吉太郎が所属した第11旅団は第2軍の戦闘序列に入り、奉天会戦では第4軍で、正面の攻撃を担当した。30歳過ぎての兵役は辛いものがあつただろう。

明治37年の秋ごろには後備兵も残り少なくなり、臨時勅令で後備兵役期が10年に延長された(満38歳まで)。丸亀に後備歩兵第59連隊が編成され、この連隊は鴨緑江軍に編入されて第11師団とともに奉天会戦を戦っている。

しかし、後備歩兵は当然ながら平均年齢30歳以上の老兵でとても精強部隊とは言えない。そこで陸軍は明治37年12月1日に入営する現役兵を2個師団分増徴して、新たに第13、第14師団を作ることにした。具体的には徴兵検査の体格合格基準を引き下げて現役兵を追加したのである。全国から少しずつ寄せ集める形で、東日本に第13師団、西日本に第14師団を編成した。善通寺では各地から集まった新兵で歩兵第54連隊を編成している。これが、宮脇彦助が所属した第14師団歩兵第54連隊である。

(三) 宮脇光次氏について

手紙のほとんどの宛名は「宮脇光次」である。なぜ、多くの手紙が光次氏あてに届いたのだろうか。それは手紙を読んでいくうちに了解できた。光次氏は村の長老格で、出征兵士支援の世話役として、遠く中国の前線で戦っている村の若者に慰問品や新聞―香川新報や讃岐実業新聞―を度々送った。さらに、留守宅の面倒も見ていたのだろう。そのお札や近況報告の軍事郵便がたくさん届いていたのである。このような例は他村にもあり、遠く前線で戦う村の若者たちは故郷の新聞を食るように読んだことだろう。

(四) 残された手紙―軍事郵便

32通の手紙の内、日露戦争中の軍事郵便は30通、差出人は8人である。ただ、それらには、戦争の生々しい描写がほとんどない。

その理由の一つは、手紙が書かれた時期にある。30通中一番早い

日付は明治38年1月1日、旅順要塞が落ちた日である。ほとんどの手紙は奉天会戦後に書かれたようだ。旅順包囲戦と奉天会戦、どちらも深刻な戦争体験があつたはずだが、それに触れた手紙はほとんど無かつた。ただし、第一回旅順総攻撃の大敗後、内地に向けての手紙に戦況をかくことは旅順陥落まで禁止された。これが、旅順包囲戦中の手紙がない理由かもしれない。

もう一つの理由は、これらの手紙の多くが肉親や親しい友人宛ではなく、村の有力者で出征兵士支援活動の世話役を務めたであろう宮脇光次氏宛であつたことだ。余り感情の出ない、決まり文句の礼状になるのはやむを得なかつただろう。

彼らは、軍務に淡々とつき、厳寒の冬にも弱音を吐かない。とはいえ、望郷の念にあふれ、残された家族や村の様子を常に気にかけている手紙ばかりであつた。

なお、手紙文の活字化にあつては、できるだけ原文のままとして、読みやすくするため原則として書き下し文とし、平仮名交じりの文に直し、句読点をつけた。あて字、誤字、脱字もできるだけ訂正した。異体字も本字に直した。判読できなかった部分は□や□で示した。地名は前掲の地図で確認して誤字は訂正した。手紙文中の()内の注記と傍線は、筆者による。

宛名を書いてないものはすべて宮脇光次宛である。



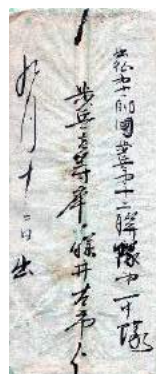
写真5 宮脇光次氏宛の軍事郵便

四 太田村の兵士たちの軍事郵便

(一) 戦場からの手紙

藤井太市

第十一師団歩兵第十二連隊第一中隊第三小隊所属、歩兵一等兵。7通の手紙が残っている。



① 明治38年9月3日

拝啓、時下其後は重々御無音に打過ぎ候段、幾重にも御許可下され度候。時下炎暑の候に御座候処、□堂御揃い御健康にて御起居に遊ばされ候哉、伺上げ奉り候。併せて、不在中は一方成らざる御厚情を蒙り、有難く茲に御礼申し述べ候。尚、今後御見捨て無く万々悪しからず御依頼申し上げ候。

随って、迂生儀、無異にて戦務従事罷り在り候間、恐れ乍ら御休意を下され候。

偕(さて)、毎々御手数には御座候へ共、御近所へ宜しく御鳳声下さるべく様伏して懇願奉り候。先ずは略音乍ら暑中御見舞い旁々御依頼迄。余は追々後便を以て御報せ仕り候。

二伸

一寸、青(清) 国の時候を報知致します。日中は内地とはかわらず。夜は内地の旧九月の時候に相かわらず。

*迂生(うせい)：一人称。小生

*鳳声(ほうせい)：他人を敬って、その伝言や書信をいう語

② 明治38年9月12日

拝啓、時下朝夕餘程冷気を相催し候処、御尊家御一統様益々御健康の趣恭悦の至りに存じ奉り候。

降りて迂生、出征来無異にて軍務従事随い候間、恐れ乍ら御休心下され度。

却説、貴君爾来御懇切に新聞紙御送付下され、本日十日着、慥かに御拝領仕り候。

偕、時の御訪問亦仕り候処、軍務に取り紛れ延引致し候。敬書相重々候にも拘わらず、御見捨て無く御懇心の段、茲に深く鳴謝奉り候。先ずは愚書を以て御礼旁々。尚、□御家内様の健全と御幸福を禱る。

*却説：さて、さてまた

鳴謝：厚く礼を言うこと

手紙中の「本日十日着」の新聞は、ポーツマス条約調印を報じた新聞だろう。すぐさま、御礼の手紙を書いたことに、戦争が終わったことを喜ぶ心情が表れている。

③ 明治38年10月31日

拝啓、其の後は御無沙汰に相成り候。陳ば、時下寒気の候に御座候處、貴家御一統御揃い遊ばされ候哉。定めて御勇の事と遠国ながら推察仕り候。

降りて野生も、相変わらず軍務罷り在り候間、慮外乍ら御安意下され度。

却説、時向も全く平和克復の暁に相成り、第一軍及び後備隊は本月十六日より凱旋の途に就き居り候始末に之有り候。我々は、元の位置に滞在致し居り候。目下、隊内の噂には、来月九日に当地発足、撫順後方奉天付近迄帰途に就き、三十九年一月六日頃に当師団は凱旋の途に就く予定に之有り候間、あらかじめ御一報申し上げ候。

□御地の時候は、此の節は如何に御座候や。当地は九月中旬より降霜致し、十月中旬より降雪致し、余程寒気に相成り候。然れ

共、防寒用被服支給相成り候に付、左程の事も之無く候。
右は御無沙汰の訳旁々、御一報申し上げ候也。余は後便に譲る。

凱旋の日が近づき、一日も早くとの思いが伝わる手紙である。この頃、師団は宮額辺門(図3参照)付近に駐屯しており、防寒着が支給されたとはいえ、厳寒期平均気温零下20度という満洲の寒さは、温かい讃岐出身の兵士には耐えがたかったのではないだろうか。

④ 明治38年11月28日

拝啓、其後は種々御無意に打ち過ぎ候段、平に御海容下さるべく候。時下追々寒氣相催し候処、貴家皆々様御壮健に御座候哉。伺上げ奉り候。

降りて小生儀も、来月九日より第一線を出発致し、六日の行軍にて奉天より五里東の金徳勝屯にて新宿營地に到着仕り居り候。新十二月廿六日に奉天迄行軍を致し、奉天にて二日間滞在仕り、又奉天より二日の汽車行軍に泥窪着、新正月上旬には凱旋致し候。私儀御蔭を以て日々無事にて、軍務従事致し居り候間、先ずは御休心下さるべく候。一寸(ちよつと)、時候御見舞い旁々、御通知迄。早々

*海容：広い寛容な心で相手の過ちや無礼などを許す事

⑤ 明治38年12月17日

拝啓、時下追々寒氣の候に相向い候処、貴家皆々様益々御健康の条大賀奉り候。随って迂生儀も御蔭を以て無事にて、日々軍務従事罷り在り候間、他事乍ら御放念下し致され候。

儲、御書面は本月十六日着、目下滞在地も近々の内に発致す事に御座候へば、さよう御承知下し致され候。

⑥ 明治39年1月4日

先ずは時候御見舞い旁々、御礼迄、早々

拝啓、時下追って寒氣相成り候処、貴家皆々御壮健の由大賀奉り候。降りて迂生儀、無事にて日々軍務従事罷り在り候間、他事乍ら御放念下され度候。

儲、凱旋も追々日引(日延)に相成り候処、愈々本月六日に新宿營地を出発致し、奉天にて二、三日の滞在仕り候。其より順次行軍にて青泥窪に到着、十三、四日に乗船致し、愈々内地に上陸は十八、九日に相成り候。又、丸亀に四、五日滞在仕り候。先ずは時候見舞い旁々、一寸御通知まで、早々。

*青泥窪：大連駅近くの地名

⑦ 明治40年12月19日(番外)

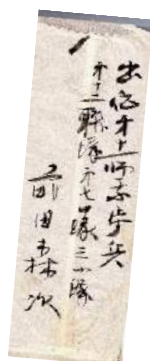
謹啓、陳ば一作日寒さの中も御いといなく高松迄御見おくり下され、有がたく存じ候。其の上ながら御見舞いを下され有がたく御礼申し上げます候。

儲、私儀も無事にて丸亀予備病院第五分院に入院致し居り候。先ずは御安心下され度候。早々。

前田森次

第十一師団歩兵第十二連隊第七中隊第三小隊所属。歩兵一等兵3

通の手紙。



① 明治38年7月19日(封筒なし)

拝啓、時下極暑の砌に候處、貴館各位益々御清昌に御起居仕り候哉、御尋ね申し上げ候。降りて不肖も御蔭にて極無事にて軍務罷り在り候間、他事乍ら御放念下され度候。

就いては、当地も氣候は昼間極暑く内地と等しく、夜間は甚だ涼しく、今頃小麦は甚だ青く谷間には鶯の鳴声を聞く。水は青く其上我中隊は甚だ高き高地にて、東北は何十里ということなく見

渡す限り青々たる長白山脈にして、晴天時は谷間青くして茫々として、恰も（あたかも）大洋の如く、敵も数里先方にて滞在が様子、我軍も毎日大なる偵察を出すれ共、しよ突（衝突）も無く、実に一線とは云え、実に気楽なことに御座候。

尚、書きたきこと澤山あれ共、次便に譲る。尚亦、講和の話は如何に相成り候か。御聞かせ下され度候。

尚、暑さの折ならば御身御大切に御保養専一、祈り上げ候。就いては、此の度は父上に無沙汰致し候故に、何卒御面倒ながら御伝声を祈る。先は乱筆御免、以上。

征露二年七月十九日

前田森次

森 七郎殿

前田嘉平殿

宮脇光次殿

其の他、免場有志者 并に若連中へも宜しく御伝声を祈る。

*長白山脈：吉林省の東端、北朝鮮との国境に連なる山脈

奉天会戦後も、日本軍とロシア軍はにらみ合いを続けていた。雄大な大陸の風景が活写され、軍務も気楽そうに書かれているが、望郷の念は強く、この頃兵士たちの間では講和の噂が飛び交っていたようだ。

また、この手紙は複数の人宛で、回し読みした後、光次氏の手元で保管されたのだろう。家族や同じ免場の人達へも伝言を頼んでいる。戦場からの情報は、家族や近所の人たちで共有された。

② 明治38年9月16日

拝啓、時下秋冷の砌に相成り候處、御尊家各位御機嫌能く御座候哉。降りて迂生も御蔭にて渡清以来極ぶじにて、毎日軍務罷り
在り候了（おわんぬ）。憚り乍ら御休心あらんこと乞う。

就いては、先日は御深（親）切に新聞を御送付下され、有難く

万謝奉り候。

且又、本月九日には当連隊の軍旗授與日に相当たり候故、英額
辺門東練兵場にて、分裂式之有り。依って角力、芝居等出来口、
其他面白きこと山々あれ共、筆に書けず。ぶじにがいせん（凱旋）
の砌は委しく御話申すべく候。

二伸

本家の一男氏へも宜しく御傳声あらんこと、伏して頼み申し上
げ候。以上

「英額辺門」（地図3参照、この地名をやっと地図で見つけた時はうれしかった。）からの手紙である。これで、第12連隊が駐屯していた所が分かる。

つかの間の娯楽の様子。講和を知らせる新聞を読み、凱旋後に思
いはせている。

『歩兵十二連隊歴史第三卷』の9月9日の記事にも「曇午前少雨
本日は軍旗祭にして盛大なる式を英額辺門東練兵場にて施行。又式
後、余興宴会。」と、当日の様子が書かれている。

③ 明治38年12月19日

拝啓、時下遂日寒氣相増し候處、御尊家皆々様御障りなく御勇
けん（健）の由、何よりにて目出度く候。降りて不肖も御蔭にて
毎日軍む罷り在り候故、他事乍ら御放念下され度候。

就いては、本日五日出の御書面十七日着、受取申し候。実に毎々
御深（親）切なる御書状下されて、有難く萬謝奉り候。

就いては、我隊も目下奉天、撫順の中かんの吞石塞と云う停車
場の南方に土人の家に舍當し居ります。就いては、寒氣厳しく候
へ共、萩野連隊長殿の命の下に度々連隊教練も有ります。亦、寒
氣のことは貴兄新聞紙上にて御承知候へば、不肖がいせん（凱旋）
の際、委しく申すべく候。

尚、連隊も本月末より当地発する噂の有り候處、少し延びて一

月四、五日頃には当地を発して、前記の呑石塞を汽車にて発して
がいせんの途に。故に何分命有らば、即日御報申すべく候へば、
後便に譲る。以上

十二月十九日

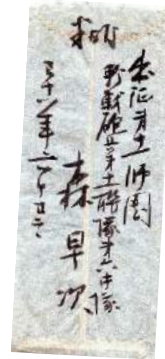
前田森次

宮脇光次殿
宮脇一男殿

凱旋は予想よりさらに遅れ、実際に奉天
を出発するのは1月9日である。

森 早次

第十一師団野戦砲兵第十一
連隊第六中隊所属。手紙2通



① 明治38年5月2日（消印より）

「大字太田本村 榎田慎次君」宛

拜啓、陳ば春候の時節に候所、皆々様御揃い御壮健に候や、伺
上げ奉り候。次に、小生は無事罷り有り候間、他事乍ら御放念下
され度候。

付いては、前田森治（次）君は第一線にて戦闘致し仕り候。榎
田た津次（串田辰次）、前田新（眞）平君などは第一線に遣し 仕
り候へ共、丈夫にて之有り候。

前田柳吉、宮脇光治（次）様へは宜しくお伝え下され度候。
尚、内地農作物の現況及び戦争の噂など委しくお知らせ下され
度候也。

委しき事、御報せ申すべきの所、戦地の事なれば書き難く候に
付き、右様宜しく御承推下され候。

奉天会戦後の、まだ戦闘が継続していた頃の手紙である。前田森
次、串田辰次、前田眞平は、いずれも第十一師団歩兵第十二連隊所
属。同郷の仲間たちの安否を常に心配していたことが窺える。森早

次のような野戦砲兵より、歩兵の方がずっと損傷率が高かった。幸
い、彼らは全員無事に帰国したようだ。（名前の訂正は『讃岐香川郡
誌』による）

② 明治38年6月22日

拜啓、時下追々酷暑の節に相向い候折柄、貴家皆々様御揃い愈
御勇健御座遊ばされ候哉、伺い上げ候。降りて野生儀、無事表記
の部隊に到着仕り、爾後倍々壮健に軍務に従事罷り在り候間、他
事乍ら御休神成り下され候。

小生儀の居り候英額辺門という所は、我鴨緑江軍の第一線に候。
時々敷襲（ごうしゅう）之有り。小戦闘は珍しからず。小銃弾・砲
弾の音は、耳を劈（つんざ）くばかりに貫き居り、又は絵画等を見
るよりも一勇面無く相覚へ申し候。かかる次第に付き何事も心配
なく、唯報国の二字を盡すのみ、他に何等の念慮も之無く候。何
れ凱旋の際まで幸いにして生命を維持する事候得ば、其節は御拜
顔互いに申し述べて候。

尚、勇□□は□□宜しく上陳の程願ひ奉り候。

追記

古川宗次氏とは□□同所にて、勉勵成られ□□□□森七郎氏宅
へ右様御伝え下され度願ひ奉り候也。

珍しく戦闘の場面が記述されている。この手紙が書かれた6月22
日時点では、鴨緑江軍の第一線での戦闘や砲撃等がまだまだ激しか
ったようだ。鴨緑江軍が英額城に入ったのは5月4日で、ロシア軍
との小規模な戦闘が繰り返されており、講和までは、気が抜けない
日が続いたのだろう。

「報国」など国家についての語彙が出てくるのは、この一例のみ
である。

松本茂太郎 第十一師団第一糧食縦列第

三小隊所屬。輜重輸卒。封筒のみの3通を加えると、計8通の手紙。

輜重(しちよう)とは軍隊が必要とする

兵器、糧食、被服などの総称で、輜重輸

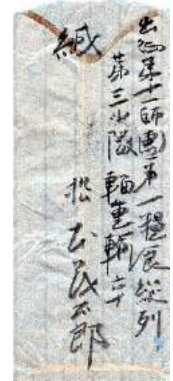
卒とは輜重の輸送を行う雑卒。主として体格その他肉体的条件の

面では一段落ちる第二補充兵役(陸軍では徴兵検査の時点で現

役・第一補充兵役に充当されなかつた者)から召集された。体力

に劣る者たちが、嚴寒の満洲で最も過酷な肉体労働に従事させられたわけである。

「輜重輸卒が兵隊ならば、蝶もとんぼも鳥のうち 電信柱に花が咲く」というざれ歌が残っている。『兵士たちの日露戦争』



① 明治38年1月1日

謹賀新年

出征留守宅一一方ならず御厄介に相成り、忝く謝奉り候、尚本年も相変わらず宜しく御頼み申し候。

明治三十八年一月一日

同行一同様

② 明治38年4月20日(封筒のみ)

③ 明治38年5月6日

拝啓、春気の砌に候處、貴家様には御障りもなく御壯健御座候や、御伺い上奉る。降りて、野生儀も幸にして無事軍務に従事罷り有り候間、他事ながら御休意下され度候。

依って、私も本日迄の様子なれば六、七月頃には凱旋も有るか

と思ひ居り候へ共、五月三日命令によれば此れより前進致す様に相成り候。四日當地出發致す故、御通知申し上げ候。三日着の新間紙、御送り下されありがたく、拝見仕り候故、御禮申し上げます。我々軍人の噂話には、ハルビン、浦塩(ウラジオストク)の間に向かい、鉄道はかい(破壊)致すとも申し居り候。私も此れより前進致す故、左様御承知下され度候。

御同行へも宜しく御願ひ申し上げます。私、もくてき(目的)地に着き次第御通知申し上げます候。先ずは時候御見舞い迄、かくの如くに御座候。早々已上

*ウラジオストクの漢字表記は「浦塩斯德」など。

ロシア軍を追って北上し、ハルビン方面まで行くというような噂話が飛び交っていたようである。

④ 明治38年5月19日

拝啓、時下春気の砌に候處、貴君様は御障りもなく益々御壯健の由、大賀奉り候。降りて小生幸い無事従軍罷り在り候間、他事ながら御休神され候。

度々新聞紙御送り下され、有がたく御禮申し上げます候。我師団は營盤より東方に向いて前進致し居り候故、左様御承知あれ。

*營盤：図3参照

⑤ 明治38年9月12日

拝啓、其の後は又々御無沙汰に打ち過ぎ候段、平に御海容下さるべく候。暑さの候も過ぎ去り候處、貴家内御一同様御壯健御座候や。御伺い上げ奉り候。降りて小生事も、無事従軍罷り在り候間、何卒御休意下さるべく候。

本日十一日に香川新報御送り下され、直ぐに拝読仕り候故、御禮申し上げ候。講和相成る故、近日には凱旋命司有るかと思ひ勇

みて従軍仕り候。

同行一般、書面差し出さずなれ共、色々用事に付き、此の段は御海容下され度候。御同行様へ宜しく御頼み申し上げ候。早々已上

講和成立が9月5日。それを報じた新聞が11日に前線に到着したというのだから、随分速い。故郷に帰れる喜びが溢れる文面である。

⑥ 明治38年12月8日（封筒のみ）

⑦ 明治38年12月15日

拝啓、寒気の候に相成り候處、貴家内御一同様には御壯健御座候や。御伺い申し上げ候。降りて小生儀、御蔭を持って無事従軍罷り在り候間、他事ながら御休神相成り度候。

次に、我縦列も一月六日に大連より乗船致すとの命司是在り候故、左様御承知下され候。ついては御返事は無用に候。御面倒ながら、御同行一同様へ御伝言下され候。早々已上

⑧ 明治39年1月9日（封筒のみ）

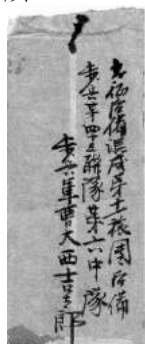
大西吉太郎

後備歩兵第十一旅団後備歩

兵第四十三連隊第六中隊所

属。軍曹。5通の手紙（内、封筒のみ1通）。

後備歩兵第11旅団は、第2軍に所属。奉天会戦の頃は第4軍に所属し最前線で戦った。軍曹だからか、他の兵より上質の便箋を使っている。『讃岐香川郡誌』の出征者名簿には名前が載っていない。



① 明治38年5月（消印より）

拝啓、其の後は久しく御無沙汰に打ち過ぎ候段に、御海容下され度候。時下、暑氣相催し候處、御家内皆々様御揃い如何御起居

遊ばされ候哉、伺い上げ候。

降りて小生事、五月四日午前七時を以て以前の宿营地を発し、北進みて目下鉄嶺と開原（開原）との中央木落にて滞在在り、無事公務罷り在り候間、他事乍ら御休意を乞う。

次に過日は讃岐実業新聞紙御送付下され、有難く拝読仕り候。先ずは御礼旁々、御一報迄。早々

*鉄嶺と開原は図3参照。

第4軍は奉天より北進して、ロシア軍と対峙する最北まで進出していたようだ。

② 明治38年7月（消印より）

謹啓、其の後は意外御無沙汰に打ち過ぎました段、真に御免。時下あつさの砌、御家内様には時候の御障りも無く御起居遊ばされ候哉、御伺い上げます。

降りて小生事、目下開原（開原）ふきんに於いて無事滞在中、憚り乍ら御あんしんを乞う。

次に、度々新聞御送付下され有難く存じ奉ります。ついては時々御動静御訪問申す筈の處、軍む（務）多忙の爲今日迄延引の段、悪しからず御推察成し下され度、先ずは時候御見舞い旁々御礼迄。尚、時候不順の折柄、御身大切に祈り奉り候也。

在満洲 大西吉太郎

*この手紙は絵入りの便箋二枚に書かれている。

③ 明治38年10月31日

拝啓、新聞紙上にて御閲知の如く、列国の調停に依り講和相整候。全ては我軍の勝利に歸し、御互いに賀すべきことに候。

就いては、所属連隊も来月十日頃より帰朝の途に上る様に相成り候間、御拝顔の期も遠からざる事と察し候間、帰の上は萬々御

談中延べたく候。

先は略書を以て御一報迄。早々

④ 明治38年11月17日

拝啓、昨十五日午後十時二分、大連湾タロー二に着、同所に於いて二日間滞在仕り、十八日には多分乗船する事と察せられ候間、取り敢えず御一報迄。

次に、去る十一月三日付の御書面、十六日タロー二にて拝誦仕り候間、是亦御安心下され度、先ずは御礼迄。
御本家の一男君へも宜しく御傳言下され度候。

大連湾タロー二

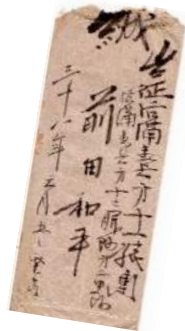
*後備歩兵第11旅団は、11月中には凱旋したようだ。

⑤ 明治38年11月(封筒のみ)

前田和平

後備歩兵第十一旅団歩兵第十
二連隊第二中隊所属。4通の手

紙が残る。



① 明治38年6月5日

追々暑気に相向い候處、貴皆々様御勇健の由、賀し奉り候。
降りて小生事愈々無事、日々軍務罷り在り候間、御安心下され度候。

扱て、先日中は新聞送り下され、有りがたく謝し奉り候。早々
前田平太郎様にも宜しく。

② 明治38年9月2日

拝啓、時下残暑未だ去り難く候へ共、御家族皆々様御揃い益々
御勇健に遊ばされ候哉、伺い奉り候。降りて迂生儀も、出征以来

神仏御蔭をもて今日迄無事にて、日夜軍務に服従致し居り候間、
憚り乍ら御休心下され度候。

扱て、貴殿業務御多忙中、毎々新聞並びに御慰問紙を下され誠
に有難く拝読仕り候。小生より度々手紙差し出すべく筈に候へ共、
投書に定め限りの在り、亦是は戦務多忙に取り紛れ、毎々御無沙汰
仕り候段、平に御容赦下され度候。尚、此の後、内地においてめ
ずらしきこと、おもしろきことあるときは、御報知下され度候。

先ずは時候御見舞い御礼旁々御通知申し上げ候。次に戦地咄申
し度儀澤山あれど、軍事ヒミツとして御話し申すことできぬ故、
無事帰国迄御待ち下され度候。早々敬白

明治三十八年九月二日

前田和平

宮脇光次様
宮脇一男様

③ 明治38年9月11日

一箇置き上げ仕り候。時下秋気の砌に相催し候處、御當家様益々
御健全の段、大賀の至り存じ奉り候。降りて野生儀、本日迄何等
の障りもなく公務に服従致し居り候間、他事乍ら此段御安心下さ
れ度候。

儲、九月八日にて当中隊長より講和談判成立の事達せられて、
吾等は誠に喜び居り候。案ずるに軍旗の凱旋と共に近々内口の有
ると存じ奉り候。一寸、略書を以て御報知申し上げ候。

宮脇光次内へてや口写真を送付致し候間、着き次第お受け取り
成られ候。森二郎内方へ露助写真送付致し候。着きや否や、お尋
ね申し上げ候。

先ずは、時候御見舞い申し上げ候。

宮脇光次様
森二郎様

*「露助」はロシア人の蔑称。ロシアへの敵愾心や嫌悪感が強く

なるにつれ侮蔑のニュアンスが強くなったようだ。

他の手紙に比べ字が乱れており、講和成立の喜びを一刻も早く伝えようとしたのがよく分かる。中隊長から講和成立を告げられたことを書いているのはこの一通のみ。

④ 明治38年10月朔日

一書拝啓仕り候。儲、先日来の御手紙下され、格別拝誦致し候処、時下秋氣の砌に相成り御口堂様は別條もなく日々事幸し御奮勉の所、実に口蒙り候口の存じ候。降りて私儀別條の障り恙なく、日々公務に致し居り候間、憚り乍ら此の段御休心下され度候。

尚又、申す迄なく秋氣時節柄故、御身御保養專一に祈り奉る。先日略書を以て御伺い申し上げ候。尚、萬

謝奉り候。以上頓首

宮脇多助

第十四師団歩兵第五十四連隊

第十中隊所属。軍曹。手紙は1通。



明治15年9月10日生まれ。

後に、太田村村会議員を5年余り勤めている。(『太田農協史』)
第14師団は明治37年12月1日入營の現役兵で編成した新設の師団である。

① 明治38年12月20日

拝啓、如命の折、高馬肥ゆるの好季に御座候。折柄おみ(御身)には御変りも之無く、愈々御壮栄にあらせられ候由、賀奉り候。降りて、迂生も無事奉公罷り在り候間、他事ながら御休意下され度、時候御伺い申すべく筈の處、反って尊公よりの書信に接し、不肖多助恐縮の至りに御座候。

扱て、等(当)地は昨今少々の雪も降り積雪約五、六寸位、寒

暖計平均零下拾九度位に御座候。

然れど、土人の家屋に住まい居り候間、さほど寒さを感じ申さず候。土人は寒國に住みなれ居る故、喰う食物多く口口に座の下より暖を取り得る様致し居り候間、余程あたたか(温こう)ございませ故、左様御承知下さい。

次に、内地では早や凱旋致し郷の諸士は十余名との事、さぞおみ(御身)御悦びの事と遥察仕り候。不肖は来年の三、四月頃には帰途につくならんと思考致し居り候間、左様御承知下され。

先ずは御返事旁々、御報知迄。尚、時候柄御身御深養專一の程、願ひ奉り候。

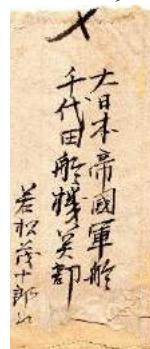
一般の兵士は露営していたと思われるので、接收した家屋に宿泊できたのは軍曹だったからか？

「早や凱旋致し郷の諸士」というのは、後備兵の大西吉太郎や前田和平などだろう。彼の所属する第14師団が最後まで残ったようだ。

若松茂十郎

大日本帝国軍船千代田船機

関部所属。手紙は1通。



① 明治38年12月(消印より)

謹啓、追々寒さに相向い候処、御家内様御一統御壮健に御座候哉、伺い上げ候。降りて、小生無事暮らし居り候。
扱て、此の度大日本軍船千代田船に乗組候処、御承知下され度候。作郎君は同日瀧田船に乗組候処、通知。余は後便にて申上げ候。

*千代田船は、日本海軍の防護巡洋艦。イギリスで建造され、

日清戦争で活躍した。日露戦争では、仁川沖海戦、旅順攻略

作戦、日本海海戦、樺太作戦などに参加。第一次世界大戦では青島攻略戦や中国沿岸水域の警備に従事した。

若松は一等機関兵として、第一次世界大戦にも従軍している。

『讃岐香川郡志』『太田農協史』によると、明治19年5月1日生まれなので、この手紙を書いた時点でまだ満19歳である。徴兵の陸軍に対し志願兵の海軍というように、当時の海軍は兵員数が多くなかったため、兵員の多くを現役志願兵で補充していた。満一七歳に達した者が志願によって現役に服することができるという現役志願兵制度で、若松も徴兵年齢になる前に海軍に志願したのだろう。後に、太田村に帰還した若松は、村会議員を4年務めている。

宮脇新太郎

最後に、日露戦争よりずっと前、明治17（1884）年に徴兵され、丸亀におかれていた第十二連隊に入営した宮脇新太郎の手紙を紹介する。

前文大略御高免下さるべく候。

陳ば、不肖新太郎、一昨三十日徴兵御採用に相成り、余り至急の事にて諸君へ離盃致にも違（いとま）あらず。就いては不都合の段偏に御任免下され候。

扨て、同日午後第七時頃の出船に乗り、其夜十時頃に漸く丸亀に渡り、八嶋屋と云へる宿にて一過仕り、明るる一日午前第十時頃に入営す。仍って左様御承知下され候。早々

廣嶋鎮台第十二連隊第三大隊第四中隊第三小隊第五半小隊第九分隊

明治十七年七月二日

宮脇新太郎拝

前田平太郎君

宮脇惣吉君

真鍋熊太君

宮脇邑尋君

宮脇光次君

次第不用御免下さるべく候。

* 広島鎮台は1873年から1888年までであった日本陸軍の部隊で、当時6つあった鎮台の一つ。広島に本営を置き中国地方西部と四国地方に相当する第五軍管を管轄した。

(二) 手紙に見える兵士たちの意識や心情

封筒のみ残ったものも含めると、戦場と内地との間は思った以上に頻繁に手紙のやり取りがあったようだ。兵士たちは軍務の暇を見ればよく手紙を書き、手紙は宮額辺門のような離れた所からも十日から半月ほどで太田村に届いた。そして、どの手紙も一日も早い凱旋（帰国）を願う気持ちと、留守宅への気遣いに溢れている。「内地農作物の現況」を知らせてほしいという文面には切実なものがある。

講和について

講和条約成立を「吾等は誠に喜び」、講和成立を知らせる新聞を受け取ると「直ぐに拝読」し、講和を「互いに賀すべきこと」と考え、凱旋する日を待ちわびる。日本国内では、講和条約に反対して日比谷焼き討ち事件などが起こったのは対照的である。実際に過酷な戦場を辛うじて生き抜いてきた兵士たちの心情を知るべきだろう。

凱旋

講和が成立してもすぐに凱旋できたわけではなかった。

凱旋は、後備兵第11旅団（明治38年11月）、現役兵の第11師団（明治39年1月）、新たに召集された現役兵の第14師団（明治39年3・4月頃）の順に行われたようだ。後備隊は召集された補充兵であったので、戦争が終結すれば復員、召集解除しなければならなかったため、現役兵よりも早く凱旋した。対して、第14師団は戦争の後も、満洲に新しく獲得した租借地や利権地域の警備という任務が課せられたため、凱旋が遅かったのである。

中国住民について

日露戦争は日本とロシアの戦いであったが、戦場となったのは中立を宣言した清国である。戦場となった奉天周辺の村はほとんど焼きつくされ、焼け残った住居は日本軍の宿舎に取り上げられた。兵士らは、このような中国民衆をどのように見ていたのだろうか。中国住民について書いたものが2通有る。どちらも彼らを「土人」と呼び、住居を取り上げて宿営し、食べ物まで奪っていることについて疑問に思ったり、気の毒に思ったりしている様子はあまりない。

(床暖房には感心しているようだ。)

「露助」という表現でも分かるように、ロシアに対する敵愾心は強かったが、日本が戦場にした中国に対する意識は希薄だったようだ。

何のために戦ったのか？

兵士たちは、何のために戦っていると意識していたのだろうか。国家に言及しているのは一通だけで、「唯報国の二字を盡すのみ、他に何等の念慮も之なく候。」と書き送っている。大江志乃夫氏は、従軍兵士たちの手紙に「天皇」や「国家」という言葉があまり出てこないことから、「国家」という新しい概念は彼らの日常に密接な関係を持つ概念ではなかったと述べている。(『兵士たちの日露戦争』太田村の兵士たちにも「国家のため・天皇のため」という意識は薄かったようだ。(注4))

五 おわりに

宮脇光次氏関係の資料の中から日露戦争従軍兵士の手紙を見つけ、解説を試みたのは一年以上前の事だった。明治期の文書―しかも手紙―は読みにくいとは聞いていたが、思った以上に難解で、当時の手紙文に慣れて読めるようになるには相当の時間がかかった。活字化したものの誤読の箇所も多々あるかと思う。

しかし、日露戦争時の手紙の発掘、紹介はまだほとんど行われていないと聞く。百年の時間の経過を考えれば、大量に出された手紙もこのまま廃棄されていく恐れは大きい。それを思えば、僅か28通でしかも拙い解説とはいえ、紹介できた意義は大きいと思う。

日露戦争後、諸物価高騰や米価下落、税負担増のため村の暮らしは厳しかった(注5)。悲惨な戦争を耐え抜き、太田村に無事凱旋した彼らはその後どのような人生を歩んだのだろうか。

(注)

(1) 男子人口千人あたりの陸軍戦没者数を全国の都道府県別に

調べた結果がある。(全国平均は三・七五人)

1位	高知県七・七二人	2位	岐阜県	七・一八八
3位	石川県七・〇八人	4位	福井県	六・六八八
5位	香川県六・三七人	6位	富山県	六・〇四人
7位	徳島県五・七〇人	8位	愛媛県	五・〇二人

高知、香川、徳島、愛媛の四国四県が第11師団管区、岐阜、石川、福井、富山の四県が第9師団管区で、1位から8位までが第3軍として旅順攻略戦に参加している。この包囲戦がいかに悲惨な戦いであったかを窺わせる数字である。(『兵士たちの日露戦争』より)

(2) 香川県出征軍人は1万8176人で、その内戦死・戦病死者は2346人。出征軍人の12・9%である。

(3) 伏石神社の戦没者顕彰碑には、日清・日露戦役の戦没者として太田地区(現在の太田上・下町)に8人の名前が刻まれている。『讃岐香川郡誌』と照らし合して、内3人が日清戦争の戦没者、残り5人が日露戦争の戦没者と思われるが、一部『讃岐香川郡誌』の氏名と合わない部分がある。



写真6 日露戦争戦没者の墓
両者とも旅順要塞攻撃中、東
鶏冠山で戦死した旨が墓石側面
に刻まれている。(高松市)

(4) 教科書の国定制度がスタートするのは、1904（明治37）
年で、以後国家主義教育が強まっていく。

(5) 太田村議会が明年に学校を新築しようとしていることに対し、
「多大の村費を要するもの（学校新築）は物価の落ち着く時期迄
延期の決議」をしてほしいという村議会への要望書（下書き）が
残っている。（宮脇光次氏関係文書）

参考文献

- 『太田農協史』（昭和55年）
- 『讃岐香川郡志』（昭和19年）
- 『香川県史5通史編近代I』（昭和62年）
- 『歩兵第十二連隊歴史 第三卷』小野寺宏編（平成11年）
- 『別冊歴史読本 日露戦争古写真帖』（2004年）
- 『凶解 ひと目でわかる！日露戦争』
太平洋戦争研究会編（2004年）
- 『写説 日露戦争』太平洋戦争研究会編（2006年）
- 『兵士たちの日露戦争―500通の軍事郵便から』
大江志乃夫（1988年）
- 『報道電報検閲秘史 丸亀郵便局の日露戦争』
竹山恭二（2004年）
- 『日露戦争陸戦史』長岡政義（2015年）
- 『軍事郵便の基礎的研究（序）』新井勝紘（2005年）

編集後記

活動報告書は、毎年度の活動を記録するとともに、調査・研究した成果を整理・保管することにより、研究会の活動の成果を積み重ねていくことに重点をおいている。

そのため、本編を大きく「活動編」と「調査・研究編」に分け整理し、それを毎年積み重ねていくこととしている。

太田南コミュニティ協議会が策定した「第2次コミュニティプラン」に「地域の歴史・文化の継承」が目標の一つにあげられており、当研究会の活動がその目的に少しでも寄与出来ることを願っている。

2017年7月に香川大学新見名誉教授をお招きして「第1回出水を語る会」を開催した。その時講師から、

「地域を作るということは次世代にかかわってくる。伝統を作るということは、それを価値があると認めてくれた若い世代の人が新しく作っていくことだと思う。先に生きた人間が出来ることは、あれこれ言うよりも、今こんなことがあったんだと、きちっと伝えること、つまり記録するとか、お互いに情報を共有しておく、そういう場を作っておくことだと思う。」との言葉は印象的であった。

今後、太田南地区に残された貴重な資料やこれまで調査・研究した成果を展示し、地区の皆様が気軽に立ち寄り、見ることが出来る場所が確保されることを期待したい。

本年度の活動報告書は、以下のメンバーが毎月1回会合や現地調査を行い取り纏めたものである。

明石豊重	東 秀憲	安藤みどり	井上和也	大住教夫	十川信孝
中澤健二	藤田修平	藤村雅範	古澤幸夫	三浦真里	山下智子

事務局長 古澤幸夫